Architecture / Design / Education / International Exchange

NICHE

工学院大学建築系同窓会誌 2020 vol. 43

http://niche-alumni.com

地中海の中心に浮かぶ島

サルデーニャへ！

2019年度 1級建築士 学科・設計製図試験（12月19日発表）

全国 ストレート合格者占有率

2019年度

全国ストレート合格者の**6割以上**は当学院の当年度受講生!

60.6%

他講習利用者＋独学者 / 当学院当年度受講生

全国ストレート合格者713名中／当学院当年度受講生432名
（2019年12月19日現在）

2019年度 1級建築士 設計製図試験（12月19日発表）

全国 合格者占有率

2019年度

全国合格者のおよそ**6割**は当学院の当年度受講生!

57.1%

他講習利用者＋独学者 / 当学院当年度受講生

全国合格者1,541名中／当学院当年度受講生880名
（2019年12月19日現在）

2019～2015年度 1級建築士 学科試験

全国 合格者占有率

直近5年間

全国合格者の**2人に1人以上**は当学院の受講生!

50.0%

他講習利用者＋独学者 / 当学院受講生

全国合格者合計24,436名中／当学院受講生12,228名
（2019年9月10日現在）

●2019年度1級建築士設計製図試験の合格実績は、2019年12月19日に発表された、2019年10月13日実施会場の1級建築士設計製図試験の試験結果に基づきます。
※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。 ※道府県合格者数・道府県ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者とは、1級建築士学科試験に合格し、同年度の1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。

2018～2014年度 1級建築士 学科・設計製図試験

全国 ストレート合格者占有率

全国ストレート合格者の**6割以上**は当学院の受講生!

全国ストレート合格者 合計8,080名中／当学院受講生 5,004名

直近5年間 **61.9%**（2018年12月20日現在）

2018～2014年度 1級建築士 設計製図試験

全国 合格者占有率

全国合格者の**およそ6割**は当学院の受講生!

全国合格者 合計18,464名中／当学院受講生 10,427名

直近5年間 **56.5%**（2018年12月20日現在）

2019年度 2級建築士 設計製図試験

当学院 当年度受講生 合格者数 **2,080名**

全国合格者の**4割以上（占有率41.3%）**は当学院の当年度受講生!
全国合格者数5,037名

※全国合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表による。

当学院基準達成 当年度受講生 合格率 **80.2%**

全国合格率 46.3% に対して

9割出席・9割宿題提出・模擬試験2ランク1達成
当年度受講生1,206名中／合格者967名
（2019年12月5日現在）

おかげさまで総合資格学院は「合格実績日本一」を達成しました。これからも有資格者の育成を通じて、業界の発展に貢献して参ります。

総合資格学院 学院長 岸 隆司

2019年度 設備設計1級建築士講習 修了考査

当学院 当年度受講生 修了率 **84.8%**

全国修了率 67.6% に対して

当学院
当年度受講生46名中／修了者39名
（2019年12月18日現在）

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

2019年度 建築設備士試験 第二次試験

当学院 基準達成当年度受講生合格率 **89.6%**

全国合格率 54.3% に対して

8割出席・8割宿題提出当年度受講生67名中／合格者60名（2019年11月7日現在）

2019年度 1級建築施工管理技術検定 学科試験

当学院 基準達成当年度受講生合格率 **92.8%**

全国合格率 42.7% に対して

7割出席・7割宿題提出・模擬試験(2)正答率6割達成
当年度受講生332名中／合格者308名（2019年7月23日現在）

2019年度 1級土木施工管理技術検定 学科試験

当学院 基準達成当年度受講生合格率 **85.2%**

全国合格率 54.7% に対して

8割出席・8割宿題提出当年度受講生88名中／合格者75名（2019年8月20日現在）

建築士設計製図講座 講師募集中 詳細・応募は右記QRコードから

2020年もさらに多くの受講生に「合格」を勝ち取っていただけるよう、講習システムを徹底強化します！ 詳しくはHPまで

効率的な学習サイクルで大幅な得点力アップを実現
合格サイクル＋継続学習
短期記憶を長期記憶に変え、知識を定着し学習効果を高めます

当学院スタッフが学習状況を確認し、効果的な学習方法をアドバイス！
合格ダイアリー
毎日の学習や日々の予定を含めたスケジュール管理に

受講生一人ひとりの理解度に合わせた"真の個別指導"を実施
対面型ライブ指導
良質な研修を数多く実施、高い指導水準に達した講師のみが登壇！

願書取り寄せサービス webのお申込フォームからカンタン申込 すべて無料で入手できる! お申込無料 スクールサイトまたは最寄校まで!

総合資格学院

東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22階 TEL.03-3340-2810
スクールサイト www.shikaku.co.jp Facebook「総合資格 他」で検索！
コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp 総合資格 検索

開講講座一覧

1級・2級 建築士 / 構造設計1級建築士 / 設備設計1級建築士 / 建築設備士 / 1級・2級建築施工管理技士 / 1級・2級土木施工管理技士 / 1級・2級管工事施工管理技士 / 宅地建物取引士 / 賃貸不動産経営管理士 / インテリアコーディネーター

法定講習
一級・二級・木造 建築士定期講習 / 第一種電気工事士定期講習 / 宅建登録講習
管理建築士講習 / 監理技術者講習 / 宅建登録実務講習

NICHE 工学院大学 建築学部同窓会

Kogakuin university
School of Architecture, Alumni association

2nd Class Architect ACADEMIC

2級建築士 アカデミック講座

18期生 4月1日より募集開始

ステップ 1+2 2級アカデミック［学費 30,000円＋税］
ステップ 3 2級問題解説コース［通常学費 180,000円＋税］

総額：21万円+税

学費 30,000円＋税

お申込みはこちらから

お問合せ：03-6894-5800
運営：日建学院

2021年7月の2級建築士学科本試験まで完全サポート!!

合格を目指すための学習フロー

10～12月 ステップ 1 オンキャンパスのスクーリング

多くの受験生が苦手意識をもつ力学と、得点源となる法規についての基礎を学びます。

1～3月 ステップ 2 自宅でオンデマンド学習

忙しい卒業間近の時期は、いつでもどこでも学習できる、自宅学習が中心。

4月 最寄りの日建学院で本試験受験願書及び通学の準備

通学校で、受験に向けての準備や、通学用教材の受け取りを行います。

4～7月 ステップ 3 日建学院でのスクーリング

徹底的に問題を解き、解説をよく読むことで実力を養成。

日程	2020 4月～9月	10月	11月	12月	2021 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
実施場所	自宅学習期間	ステップ 1 大学 又は 日建学院通学			ステップ 2 自宅学習期間			ステップ 3 日建学院 通学								
講座名		養成アプローチ(受験準備)講義			建築士入門講義			2級建築士問題解説講座			2級建築士設計製図講座					
2級建築士学科アカデミック講座	建築BASICテキスト ※建築BASICテキストお申込みいただいた学生様よりテキスト配布。	平日夜間又は土曜・日曜コース 1週（2時間×2回）			教材セットアップ			2級問題解説講座 開講			特訓テスト(オプション) → 設計製図講座(オプション)					
		力学 講義回数 8回（約4週）（12時間）	法規 講義回数 6回（約3週）（9時間）	設計 講義回数1回（2時間）	・WEB添削実施 ・問題集実施 ・法令集セットアップ ※受講者の卒業課題進行に合わせ個別に進行予定。 重要 学業を疎かにさせないこと。			講義回数 養成法規……4回 計画……3回 法規……4回 構造……4回 施工……3回 =18回 小テスト 養成法規 10問×3回 計画 10問×3回 法規 10問×4回 構造 10問×4回 施工 10問×3回 =170問	全国公開模擬テスト②各25問×4科目	マラソンテスト①②③法規	最重問題A～D 25問×4科目 =400問 確認テスト1～4 計:50問×2回 法:40問×2回 構:50問×2回 施:50問×2回 =380問 必勝テスト1～4 20問×4科目×4 =320問 全国公開模擬テスト③各25問×4科目	マラソンテスト④⑤⑥計画・構造・施工	設計製図 受験準備講義 開講	設計製図前半（学科発表前） 48時間	設計製図後半（短期設計） 30時間		

お申し込みは、同窓会ホームページ（http://niche-alumni.com/）にて簡単に手続きができます。

〈主催〉 工学院大学 建築系学科 同窓会

目指せ住環境のプロフェッショナル

インテリアコーディネーター講座

未来のために「今」できることを考える!

皆さんは、日々知識の習得に励み、アルバイトや仲間との交流を通じて、「今」しかできない、貴重な経験を重ねていることと思います。
学生時代は、そうした貴重な経験や体験ができる場であると同時に、近い将来、自分が進む路を方向づける場でもあります。
インテリアコーディネーターは、建築・不動産業界での仕事に活きる資格であるだけでなく、資格にチャレンジする過程で得る知識は、実務に就いた時に必ずや皆さんの助けとなるでしょう。また、就活に於いて有利な立場に立てることは言うまでもありません。
自分自身の未来のために、学生である「今」できることにチャレンジしませんか。

①就活に役立つ!

皆さんの人間性や個性を面接だけで企業側に伝えることはなかなか難しいですよね。目指す企業に就職するために、企業研究やOB訪問をし、面接準備を進めるのが一般的な就活対策ですが、その他にも自身の能力や強みを分かりやすく企業側に伝えることができるのが「資格」です。「資格」はそれ自体が価値のあるものですが、就活において資格は「目標に向けて努力をし、結果を出した人物」として評価されます。「住」に関する多くの業界で活かせる資格です。

②知識が生涯の財産に!

建築・住宅・インテリア関連の仕事に従事している方でも、インテリアを基礎からしっかり学んだという方は意外に多くありません。受験対策を通じて得る知識は、必ず実務で役に立ちます。しっかりした知識・教養に裏打ちされたスキルは、生涯を通じて皆さんの大きな財産となります。比較的時間に余裕のある「今」こそチャレンジに最適なタイミングです。

講　座　風　景

お申し込みは、同窓会ホームページ（http://niche-alumni.com/）にて簡単に手続きができます。

〈主催〉工学院大学 建築系学科 同窓会

工学院大学建築学部同窓会主催

二級建築士エクステンション対策講座

①学習習慣の創出
社会に出た後に養うことが難しいことの１つは、業務時間外の「学習習慣」です。
業務に慣れていない入社直後の状態から、いざ「社会人になったから学習を始めよう」と思っても、仕事に意識をとられ上手くいかないことが多いです。
この入社までの期間、学校にいる時間外に学習する習慣が身につけば、入社後、業務時間外に学習を行うことも、苦になりません。

②二級建築士取得までの土台づくり
「二級建築士」の取得に必要な時間は、現在700時間と言われています。これは、試験に合格している受講生から統計を出したデータです。学部卒の方はご入社して三ヶ月後に受験となります。三ヶ月では学習が間に合わない可能性が高いです。今から学習を始めれば、無理なく学習が出来、社会人1年目で有資格者となることができます。

二級建築士の独占業務

- 建築物の設計
- 建築物の工事監理
- 建築主に対する重要事項説明

建築士の資格を持っていないとできない「独占業務」というものがあります。設計も工事監理も、お客様に対する重要事項説明も、有資格者のみが出来る仕事です。
建設業界では資格の有無が仕事の幅や今後の活躍に大きく影響します。

■2級建築士が扱える（設計・工事監理）建築物

【木造の場合】
- ●高さの制限
  高さ13mかつ軒高9m以下まで。
- ●延べ面積の制限
  1階建て…制限無し。
  2階建て以上…1,000㎡まで。

【鉄筋コンクリートの場合】
- ●高さの制限
  高さ13mかつ軒高9m以下まで。
- ●延べ面積の制限
  階数に関わらず300㎡まで。

※木造も、鉄筋コンクリート造も、建てられる階数に制限はありませんが、高さと軒高の制限から、現実的には3階建て程度が限界です。
※学校、病院、劇場、映画館、公会堂、集会場（オーディトリアムを有しないものを除く）又は百貨店の用途に供する建築物で、延べ面積が500㎡を超えるものは、1級建築士でなければ設計又は工事監理をすることができません。
※その他の構造種別に関する詳細は、試験実施機関のHP、または当学院のHPにてご確認ください。

実務に活かせる２級建築士

資格取得がこんなに仕事に活きる

最低限のルールを学べた

自分は施工管理の人間なので、どういったプロセスで設計がされているか、以前は具体的にわからない状態でしたが、試験勉強をすることで、最低限のルール等を学ぶことができたと感じました。
（25歳／ハウスメーカー）

エスキスの手順が効率アップに

設計事務所で働いており、普段の仕事はＣＡＤで製図を行っていますが、資格試験のため、手書きの練習を何度も重ねた結果、実際の仕事の計画をするうえでも順序よく考えられるようになり、仕事の効率もアップしました。
（22歳／設計事務所）

プレゼンテーション能力が養われた

建築という仕事は知識だけではなく、プレゼンテーション能力も要求される仕事だと思います。限られた時間のなかで、要求を満たしながら人を惹きつけるプランを提案する。建築士の学習を通して学んだ力は、仕事でも役に立っています。
（27歳／教育、学習支援業）

LIVE講義
専属講師が直接講義！質問対応・疑問をその場で解消！

合格を完全サポート！オリジナルテキスト・問題集！

B5判で見やすい法令集
便利なアンダーラインの引き方、カラーインデックス付き！

総合資格学院
すべては「合格」のために

▼講座に関するお問合わせ
総合資格新宿校　TEL（03）3340-5671
kogakuin-dousoukai@shikaku.co.jp

お申し込みは、同窓会ホームページ（http://niche-alumni.com/）にて簡単に手続きができます。

〈主催〉工学院大学 建築系学科 同窓会

NICHE 2020 vol. 43
目 次

地中海の中心に浮かぶ島
サルデーニャへ!

同窓会より

8……巻頭言

10……NICHE Topics

12……新刊書紹介

14……初めてのサルデーニャ

20……サルデーニャの中近世
島都カリアリの歴史的建造物をめぐって　中島智章

28……脱成長の建築のゆくえ
オスロ建築トリエンナーレ　鈴木敏彦

26……NICHE Passport

自然が絡み合うクメール建築のカンボジア　伊藤世玲奈

文化と人種が調和した地 ニューヨーク　鹿糠拓哉

「文化×建築」の手がかりを体感しにフランスへ　川村茉優

ヨーロッパ諸国の統一感のある街並み　草間純奈

イベリアで触れる伝統と商空間　草野ダニエル秀幸

パリの魅力　大泉奈央

ポートランド デザインが町を最高にする　中村祐耶

アフリカの発展を建築から学ぶ　鋪田かんな

44……白樺湖 夏の家
香川浩

歳時記2019

NICHEとダイジェスト

2014年より、工学院大学建築学部同窓会誌NICHEは2冊に分かれました。一つは建築とデザインの学際的な架け橋として、海外取材に基づく特集記事と連載を中心とした叢書『NICHE』です。同窓会費や寄付金をお支払い頂いた方にお送りするほか、全国主要書店やAmazonで販売しています。もう一つは広報誌『NICHEダイジェスト』です（本誌）。『NICHE』から抜粋した内容と本学に特化した記事を掲載し、同窓生や本学関係者に無料で配布します。

NICHE 07　地中海の中心に浮かぶ島 サルデーニャへ!　2020年6月発行予定

1　初めてのサルデーニャ　杉原有紀

コラム1　ウラッサイのマリア・ライ作品めぐり

2　サルデーニャの歴史

サルデーニャの歴史　Andrea Lutzoni

サルデーニャの中近世　中島智章

初期キリスト教〜ロマネスクの教会　土屋和男

タロスの遺跡　香川浩

地中海の聖なる島　陣内秀信

知られざるサルデーニャ　藤森照信

コラム2　モンテプラマの巨人

3　サルデーニャの伝統工芸

伝統からデザインへ　Stefano Ercolani

コラム3　マリアントニア・ウル製織所
Emiliano Cappellini

4　サルデーニャの文化

サルデーニャのランドスケープ　Giovanni Piliarvu

サルデーニャの儀式　Giovanni Fancello

料理の歴史　Giovanni Fancello

5　サルデーニャの芸術

サルデーニャの芸術の歴史　Stefano Resmini

マリア・ライ　Stefano Resmini

コンスタンティノ・ニボラ　Stefano Resmini

6　輝かしき先輩たち

第21回　北村銀太郎　類洲環

EU、イタリア、サルデーニャの旗

スー・ヌラージ・ディ・バルーミニ（バルーミニのヌラーゲ遺跡）

巻頭言

海外への好奇心と、学びを還元する力

2020 vol. 43

NICHE出版会では2014年から「大学の知的資源やネットワークを生かして社会に貢献する」という理念を掲げ、大学関係に配布するダイジェスト版と、広く一般に発信する書籍の２本立てにシフトして今年で7年目を迎えた。前者では同窓生の仕事ぶりや、海外渡航奨励金制度を用いて海外を巡った在学生のレポートを載せ、後者では毎回異なる国をテーマに掲げ、海外の建築探訪を通じてその国の建築と歴史を掘り下げる特集を組んできた。世界は目まぐるしく動いているが、建築とデザインと教育事情には常に通底するものがある。それは海外に対する飽くなき好奇心と、見聞きしたものを還元しようとする力である。

本年度、NICHE編集部は縁あってイタリアのサルデーニャ島に飛んだ。

サルデーニャへ！

多くの人にとって聞き覚えがあるのは、イタリアの島国をブーツに見立てるとしたら爪先に位置し、映画「ゴッドファーザー」の舞台となったシチリア島だろう。一方、サルデーニャ島はブーツのむこうずねより西、地中海の中央に位置する。大きさは四国の1.3倍あり、紀元前から巨石文化や伝統工芸など独自の文化を育んできた。しかし日本での知名度は低く、サルデーニャの建築やデザインについての本は数えるほどしか出ていない。ニッチに掘り下げる使命を感じ、現地の建築家や専門家と協力しながら、8月いっぱい時計回りに島を巡り取材した。

特集１　サルデーニャの歴史

本誌Vol.43では、中島智章先生にサルデーニャの中近世について解説して頂いた。また、『NICHE 07』ではサルデーニャにおける初期キリスト教やロマネスクの教会について土屋和男先生に寄稿して頂く。表紙写真にあるタロスの遺跡については香川浩先生が執筆している。先史時代の謎に満ちた巨石文明についてはカリアリの考古学博物館からの寄稿を予定している。ユネスコの世界遺産にも指定されたスー・ヌラージ・ディ・バルーミニは、石積みの円錐形の部屋が複数隣接しており、高さ18.5m、直径11mと大きく、7000あったヌラーゲ遺跡の中でも最大級の規模だ。

特集２　サルデーニャの伝統工芸

生活を営む上で用いる日常品に施された細やかな手仕事は、大量生産の製品を見慣れた現代の私たちの目に新鮮に映る。各地で農業や漁業や家庭内で用いた籠、そしてロバに乗る時に背にかけた布や室内を彩る織物を取材した。世界各国の織り手を受け入れワークショップを行っているマリアントニア・ウル製織所の体験記を載せる。伝統と革新のバランスを織り込んでいるのが興味深い。

ニヴォラの代表的な彫刻作品「母」

ニヴォラとマリア・ライの共作。ウラッサイの洗濯場の噴水

特集３　サルデーニャの文化

海に囲まれ山を抱く豊かなランドスケープについては写真家のジョヴァンニ・ピリアルブ氏に、サルデーニャの料理についてはジョヴァンニ・フランチェッロ氏に寄稿して頂く。『地中海の聖なる島サルデーニャ』を2004年に出版している陣内秀信先生にはその続報を、そして知られざるサルデーニャのエピソードについては藤森照信先生に寄稿して頂く予定だ。

特集４　サルデーニャの芸術

布の芸術家のマリア・ライ（1919–1988）と彫刻家のコンスタンティノ・ニヴォラ（1911–1988）は、サルデーニャが生んだ知られざる巨匠だ。彼らの共通点は職能ではなく、生き様が強烈な作品と化していることだ。ライが生まれたウラッサイの村の洗濯場は二人の共作で1905年に屋内噴水作品となった。ライが天井のテキスタイルやロープを手掛け、ニヴォラが階段状に落ちる水の楽器を制作した。一方、カリアリ近郊にあるサウンドガーデンには彫刻家のピヌッチョ・ショーラ（1942–2016）が手掛けた数々の石の楽器がある。幾つもの溝が刻まれた石に小石や手で触れると、繊細な音が奏でられる。

今回の約１ヶ月の取材旅行においては、なんと一人の中国人にも日本人にも会うことはなかった。まさにニッチなイタリアがここにあった。これから出版される『NICHE 07』が日本とサルデーニャの架け橋となることを願う。

大学という学び舎は知的資源の宝庫である。そして言語と国境を越えた人的ネットワークこそ、未来への力を育む。NICHE編集部では、皆様からの忌憚のないご意見とご感想を励みに、ニッチな視点で世界を切り拓いていきたい。

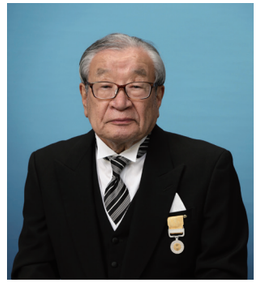
2020年3月　東京にて
NICHE編集長
建築学科同窓会会長　鈴木敏彦

ピヌッチョ・ショーラの石の楽器を奏でる中島智章先生と筆者

鈴木敏彦　Suzuki Toshihiko
1958年東京生まれ。工学院大学建築学科修士課程修了。黒川紀章建築都市設計事務所、フランス新都市開発公社EPA marne、早稲田大学建築学専攻博士課程を経て、1999–2007年東北芸術工科大学プロダクトデザイン学科助教授、2007–2010年首都大学東京システムデザイン学部准教授、2010–2011年工学院大学工学部建築都市デザイン学科教授。2011年より工学院大学建築学部建築学科教授。北欧建築・デザイン協会副会長。
グッドデザイン賞／中小企業庁長官賞、アジアデザイン大賞グランプリ、レクサスデザインアワード2013、iFデザインアワード2014、第19回木材活用コンクール林野庁長官賞、A'Design Award2016銀賞、ウッドシティTOKYOモデル最優秀建築賞2019、スカイデザインアワード2019金賞。
著書に『世界で一番美しい建築デザインの教科書』（エクスナレッジ）、『北欧の巨匠に学ぶ図法 家具・インテリア・建築のデザイン基礎』（彰国社）、『北欧の巨匠に学ぶデザイン アスプルンド/アールト/ヤコブセン』（彰国社）、『建築プロダクトデザイン／暮らしを劇的に変えるモノと空間の設計思想』（講談社）、『ヤコブセンの建築とデザイン』（TOTO出版）、『プロセスでわかる 住宅の設計・施工』（彰国社）などがある。

西村武氏
2019年秋の褒賞、黄綬褒章

西村武氏（1962年建築学科卒）が令和元年秋の褒賞で黄綬褒章の栄誉を受けられた。黄綬褒章は農業、商業、工業等の業務に精励し、他の模範となるような技術や事績を有する者に授与される。西村氏は卒業後に熊谷組に勤務、札幌・神戸・大阪・仙台などの現場で建築のノウハウを学び1969年に独立。西村建築設計事務所を開設。日本建築士事務所協会ほか関係団体の会長、全国団体の副会長を歴任。50年にわたり北海道内で1500件近い建築設計を手がけ、業界の発展に尽力した。基本理念は「お客様に選ばれる設計」。同事務所の会長としてさらなる活躍が期待される。



首里城復興 連続シンポジウム

工学院大学新宿キャンパス、アーバンテックホールにて首里城正殿の復興を考えるシンポジウムを開催した。2020年 1月31日の第1回「消失前の首里城正殿はこのような建物だった」では首里城の歴史的、文化的価値の再考と、科学技術を用いた修復について報告があった。2月25日の第2回「再建に向けて―木材・職人手配・防災―」では資材の供給、職人の手配、設計の課題について提言があった。3 月21 日に沖縄産業支援センター大ホールにて第3 回「こうすれば首里城は再建できる―日本建築士会連合会からの提言―」を開催する。

主催：公益社団法人日本建築士会連合会／公益社団法人沖縄県建築士会
共催：一般社団法人工学院大学校友会／学校法人工学院大学／工学院大学建築学部

NICHE Topics
2019年度の話題

第7回チルチンびと住宅建築賞　若手建築家部門佳作「志太の家」

チルチンびと住宅建築賞は、木の家造りを通し「地域循環型社会」に貢献する設計者を表彰する建築賞である。若手建築家部門では地域や風土を意識し、場所の特性を読み解いた建築家が表彰される。鍋田さつき氏は第4回での自邸「山の上の家」（写真右）に続き、2018年竣工の「志太の家」（写真左）で第7回若手建築家部門佳作を受賞した。静岡県藤枝市に建てた住まいは季節のうつろいを楽しめるつくりである。鍋田氏は「これからもコツコツ誠実に、素朴ないい家をつくっていきたい」と抱負を語った。

一級建築士合格者
大学別ランキングで8位

国土交通省から、2019年度一級建築士試験「設計製図の試験」の合格者が発表された。本学出身の合格者は57人。学校別合格者では全国８位。昨年度から１位ランクアップした。

1位	日本大学	192名
2位	芝浦工業大学	110名
3位	東京理科大学	95名
4位	早稲田大学	88名
5位	近畿大学	66名
6位	法政大学	60名
7位	明治大学	60名
8位	**工学院大学**	**57名**
9位	九州大学	53名
10位	千葉大学	49名

出典：財団法人建築技術教育普及センター
2019年一級建築士試験「設計製図の試験」学校別合格者数

2018–2019 A' Design Award　銀賞
藤木隆明 ＋ 佐藤由紀子 ＋ 藤木研究室

イタリアで開催される国際コンペA' Design Awardのアート部門にて、藤木隆明先生＋藤木研究室＋佐藤由紀子の２畳の茶室「多孔体：2畳 ⊂ 4.5畳」が銀賞を受賞した。2018年「大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ」の特別企画展用に制作したもので、ボロノイ分割による入れ子の構造が特徴的だ。茶室の中に来場者が入ると、多数の孔が呼吸するように開閉する仕組みとなっている。藤木研究室の大野由（2019年修士）、植木聖也(2019年修士)、渡辺顕人(2018年卒業)、瀧本駿（2019年卒業）、木村勇太（修士課程）が制作に参加した。

平城宮跡の見学会の見学会

2019年9月7日、工学院大学校友会奈良支部が校友会周知活動として平城宮跡歴史公園の見学会を開催し、田野邉校友会長、関谷事務局長、支部組織部より茅野氏、岡安氏、関西支部（大阪、兵庫、和歌山、京滋）の18名が参加した。解説ボランティア歴20年となる支部顧問の磯氏の案内で、いざない館にて平城宮のパノラマや大極殿１/5模型などから当時の都市計画や建築技術の高さを学び、朱雀門、南門（工事中）、大極殿の復原から往時の面影を感じた。1300年前の都人に思いを馳せ、校友会交流の試みとして成果を得られた真夏の一日となった。

スカイデザインアワード2019金賞

国際コンペ、Sky Design Award 2019にて、鈴木敏彦先生のアルミハニカム製のテーブル「Aluminum Honeycomb Table」が家具部門のグランプリを受賞した。スカイデザインアワードは空に制限がないように視野を広げるデザインを表彰している。超軽量、高剛性、高性能というアルミの特性を生かし、天板の端部を3mmの薄さで実現した点が評価された。

アンジェロ・マンジャロッティ
構築のリアリティ展

写真＝山田新治郎

2019年9月13日～29日にイタリア文化会館 にて、戦後のイタリアの教会や工場や駅舎にてPC工法を牽引したアンジェロ・マンジャロッティの建築の軌跡を展示した。スイス・イタリア語圏大学メンドリシオ建築アカデミーのキュレーションで、工学院大学鈴木研究室が会場構成、設営、運営、撤収を手伝った。展覧会初日には同会場にて記念講演会が開催され、マンジャロッティと親交があった槇文彦氏や、ミラノ事務所で働いた日本人アソシエイツ、大理石テーブルやガラス製品のメーカーによって、独特の構築方法を開発した巨匠の取り組みが紹介された。

ウッドデザイン賞2019
緑の椅子リプロダクト研究会

ウッドデザイン賞を「ブルーノ・タウトの緑の椅子　復刻／量産化プロジェクト」が受賞した。ライフスタイルデザイン部門にて国産材の積極的な利用を促進し、新しい領域で機能性や利便性を高める木の活用が表彰された。1935年にドイツ人のブルーノ・タウトがデザインし少林山達磨寺が所蔵する「緑の椅子」を3次元計測とモデリングにより解析したプロセスをアーカイブ化し、天童木工で復刻したことが評価された。浅水雄紀（2018年修士）、鈴木敏彦先生、島崎信先生（武蔵野美術大学）、西澤高男先生（東北芸術工科大学）が共著で研究内容を出版した。

藤森照信 現代住宅探訪記

藤森照信（著）、秋山亮二（写真）、普後均（写真）

藤森先生がアントニン・レーモンド設計の「軽井沢新スタジオ」や、バウハウス帰りの山脇巌設計の「三岸アトリエ」など近代の名作住宅15軒を探訪し、写真と軽妙洒脱なエッセイでモダニズムを論じる。

世界文化社／223ページ
2,200円＋税／2019年12月17日

世界で一番やさしい木造住宅

関谷真一（著）

エクスナレッジ・建築知識のムックの新装版。著者いわく、八王子の宮大工を祖先とする工学院大学OB、番匠設計の小町和義氏からの学びが活きている。より良い日本の木造住宅の一助となるよう上梓した。

エクスナレッジ／239ページ
3,300円＋税／2019年12月28日

近代建築そもそも講義（新潮新書）

藤森 照信+大和ハウス工業総合技術研究所（著）

コンドル設計の旧岩崎久弥邸は土足の作りだが来客時にはスリッパを使ったとか、辰野金吾設計の東京駅のレンガ積みの目地はカエル股の仕上げであるとか、藤森先生が一番詳しい明治時代のエピソードが満載。

新潮社／254ページ
800円＋税／2019年10月16日

東京建築遺産さんぽ

大内田史郎（著）、傍島利浩（写真）

東京および近郊の明治から昭和初期竣工の40の建築を美しい写真と共に紹介。自由学園や日本橋などいわゆる名作に加え、小菅刑務所や旧秩父セメント第２工場などユニークなセレクトが楽しめる。

エクスナレッジ／160ページ
1,800円＋税／2019年8月31日

カフェの空間学 世界のデザイン手法

加藤 匡毅（著）、Puddle（著）

世界のカフェ40件の空間デザイン資料集。新築やリノベーションの事例を写真、平面図、スケッチから読み解き、街に波及するデザインについても考察。設計者はもちろん、カフェオーナーも必携。

学芸出版社／184ページ
3,000円＋税／2019年9月8日

NICHE 06
プラハ、ウィーン、ブダペシュト建築探訪！

工学院大学建築学部同窓会NICHE出版会

オーストリア＝ハンガリー君主国の世界遺産都市を特集。プラハのキュビズム、ウィーンの世紀末、ブダペシュトのウドゥン・レヒネルを解説した各都市の建築マップは旅行ガイドとしても便利だ。

Opa Press／282ページ
2,800円＋税／2019年12月1日

図説ヴェルサイユ宮殿
太陽王ルイ一四世とブルボン王朝の建築遺産（増補改訂版）

中島智章（著）

太陽王ルイ14世はどのような一日を送っていたのか。巨大宮殿が増改築を繰り返した理由とは何か。学部、大学院の卒論から今日まで一貫してヴェルサイユを研究してきた筆者の筆が冴えわたる。

河出書房新社／152ページ
1,900円＋税／2020年1月21日

《悪魔のロベール》とパリ・オペラ座
19世紀グランド・オペラ研究

澤田肇、佐藤朋之、黒木朋興、安田智子、岡田安樹浩、中島智章、他（著）

音楽・文学・美術・建築なの多様な視点から、パリに花開いた総合芸術グランド・オペラの心象に迫った。1831年上演の「悪魔のロベール」を、文学者、音楽理論研究者、建築史家が読み解く。

上智大学出版／376ページ
2,600円＋税／2019年4月1日

英国貴族の城館

増田彰久（写真）、中島智章（文）

豪華絢爛な大英帝国42の城館（イングランド25、スコットランド17）を、インテリアや美術品と共に美しい撮り下ろし写真で紹介。文学やドラマの舞台となった壮麗な英国貴族の文化を読み解く。

河出書房新社／288ページ
15,000円＋税／2019年12月2日

図説 巴洛克

中岛智章（著）、曹逸冰（訳）

『図説バロック 華麗なる建築・音楽・美術の世界』（河出書房新社、2010年）の2010の簡体字中国語訳。劇的な流動性、過剰なまでの装飾性、トロンプ・ルイユ、ロココ美術の背景を伝える。

天津人民出版社
2019年2月1日

図説 パリ
名建築でめぐる旅（増補改訂版）

中島智章（著）

『ガリア戦記』の時代（クリニュー博物館古代浴場）から、十字軍（ノートル・ダム大聖堂）、ルイ14世（ルーヴル宮殿）、ナポレオン一世（エトワール凱旋門）、パリ万博（エッフェル塔）の各時代をひもとく。

河出書房新社／144ページ
1,900円＋税／2019年08月27日

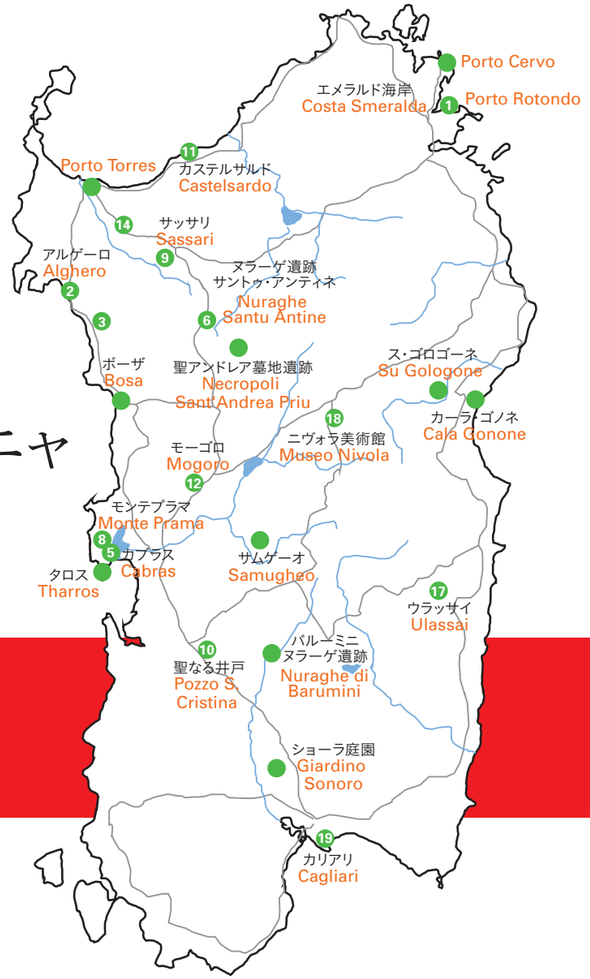
アンジェロ・マンジャロッティ
構築のリアリティ　組み立て工法による生成

フランツ・グラフ、フランチェスカ・アルバーニ、鈴木敏彦、他（著）

マンジャロッティがイタリア各地にコンクリートや鉄を組み合わせて設計した社屋、工場、住宅の工法とその後をメンドリシオ建築アカデミーが調査。日本語版の巻頭言は槇文彦氏が書き下ろした。

Opa Press
2019年9月13日

初めてのサルデーニャ



Aug.

5 成田発　ローマ経由　アルゲーロ着
6 アルゲーロ、旧市街、サッサリ大
7 トラルバのヌラーゲ・サントゥ・アンティネ、聖アンドレアのネクロポリス
8 アシナラ湾、カステルサルド籠の博物館、職人にインタビュー
9 モーゴロのサルデーニャの芸術工芸品見本市、
サムゲーロのマリアントニア・ウル製織所、サンタ・クリスティーナの聖なる井戸
10 サルデーニャのシェフによる夕食会
12 エメラルド海岸、ポルトチェルヴォ、ポルトロトンド、ポルトトーレス
14 サッサリのろうそく祭り
15 ス・ゴロゴーネ
16 マモイアーダの 地中海仮面博物館、コンスタンティノ・ニヴォラ博物館
17 カーラ・ゴノネ、ウラッサイのマリアライ現代美術館、
18 カリアリ
19 カリアリ旧市街、新市街
20 カリアリ考古学博物館
21 バルーミニのスー・ヌラージ考古遺跡、ピヌッチョ・ショーラ美術館
22 フラミンゴ観察
23 オリスターノの教会、カプラスの考古学博物館
24 タロス遺跡、ボーザ
25 アルゲーロ発　ローマ経由
26 成田着

❶エメラルド海岸

❷アルゲーロの水平線に体を横たえたカポ・カッチャ

2019年の夏、NICHE編集部は縁あってサルデーニャ島に飛んだ。イタリア特別自治州で、古くからサルド語を話し独自の発展を遂げてきた島だ。先史時代の古代遺跡があちこちにあり、考古学の研究が進んでいるが巨石文明の歴史はいまだに謎に包まれている。また、地中海の中心に位置するため交易の要地として発達した。様々な文明が入り交じり豊かな食文化や工芸が生まれた。険しい山に羊が守られてきたように、サルデーニャの芸術も脈々と育まれてきた。2000キロにわたる海岸線は海水浴客をひきつけてやまない。特にエメラルド海岸❶にはディカプリオやビヨンセやスワロフスキー創業家など欧米のセレブリティが大挙して自家用ジェットやクルーザーでつめかける。考古学からリゾートまでの幅広い魅力に迫るべく、8月いっぱいで周遊する予定を組んだ。日本からの直行便は無いが、ローマやミラノやヨーロッパのハブ空港からアルゲーロやカリアリにアクセスできる。

最初の1週間はアルゲーロを拠点にした。11世紀にジェノヴァのドリア家はこの北西の海岸に要塞を作った。旧市街や塔はその城壁の内側にある。城壁越しの水平線に横たわる巨人になぞらえたカポ・カッチャという崖が見えた❷。眩しく暑い日差しの下で泳いだ観光客を迎えるべく、夕方になると博物館やサンゴの土産店やレストランの日が灯る。イタリア語だけでなくフランス語やスペイン語が飛び交い、国際的なリゾート地といった趣だ。
現地取材に協力してくれる建築家のステファノ・エルコラーニ氏と落ち合い、彼の家で夕食をご馳走になった。サッサリに設計事務所を構える彼にとって、アルゲーロは家族と夏を過ごす場所だという。海が見えるベランダに椅子とテーブルを並べ、かりっと薄いパンや干しイチジクやサラミをつまみに、水深40mの海中で熟成させたスプマンテのアケンタを飲み干し、奥方のお手製のパスタに舌鼓を打った。サルデーニャでは町ごとにパンやパスタや民族衣装があるという。ある夕方にア

❸野菜のフルコース

❹コルクの木と名産のコルクの皿

❺カプラス特産のカラスミ

❻ヌラーゲ・サントゥ・アンティネ

❼中央の塔の3階から見上げた青空

ルゲーロから南下し、エルコラーニ氏が設計した家を訪ねた。料理人のジョバンニ・フランチェッロ氏とキュレーターのステファノ・レスミニ氏が待っていて、庭で採った野菜でフルコースを用意してくれた❸。食前酒はベルモット。ズッキーニのフリットに始まり、ドライトマトとペコリーノのサラダ、茹でインゲンとフルーツの付け合わせ。サルデーニャ風カポナータ。ひよこ豆のミネストローネ。ナスとパルメジャーノのトマトソースのオーブン焼き。ロゼのスプマンテと香り高い赤ワインの2008年セラモスカを頂く。ドルチェはラズベリーとイチジク、テリッケというお菓子。食後酒はミルト。星空のもと、美味しい食事を建築と芸術を愛する仲間たちと堪能する至福のひとときを味わった。NICHEに寄稿してもらう約束をとりつけたので、幸福感がさらに増したのかもしれなかった。アグリ・ツーリズモ（農家が経営するレストラン）や、ス・ゴロゴーネのホテルでは、名産のコルクの皿❹に盛り付けられたサラミやチーズに、豚の丸焼きが供された。カーラ・ゴノネではトルトリ産、カリアリではサンタンティオコ産の牡蠣を食べた。カブラスでは特産のカラスミ❺が美味しかった。セアダスという揚げたチーズに蜂蜜をかけて食べるデザートも美味だと勧められれば、体重はもうあきらめるしなかった。

エルコラーニ氏は岩石に詳しい。建物に用いられた色の違う玄武岩や砂岩や石灰岩を見るたびに触って確認することを求める。例えば最初に訪ねたヌラーゲ・サントゥ・アンティネ❻では、黒っぽい玄武岩が使われていた。ヌラーゲとはサルデーニャ特有の3000以上ある巨石構造物の遺跡で、要塞住居と考えられている。上に行くほど小さな石が積まれている。古代の石積みの内部空間は圧感だ。3室中央の塔の中から見上げると青空が丸く切り抜かれて見えた❼。さらに複数の塔と壁で構成された、カリアリ近くのスー・ヌラージ・ディ・バルーミニは世界遺産となった。これらの遺跡を語る上で見逃せないのは巨人の伝説である。プラマ山から発掘されたモンテ・プラマの巨人❽と呼ばれる彫像がカリアリとカブラスの考古学博物館に展示されている。ボクシングや弓矢で武装した姿から、ヌラーゲや神殿を守っていた存在と考えられ、身長2.3メートルの巨人が実在したのかと古代ロマンをかきたてる。

ボノルヴァには聖アンドレアのネクロポリスがある。新石器時代（紀元前3500-2700）に岩山に彫りだした横穴で、地下墓地として用いたのち、初期キリスト時代には礼拝堂に転用された。サッサリのサッカルジャ聖堂❾にもフレスコ画が残っていた。こちらは白い石灰岩と黒い玄武岩を構成した建築物で、平原に立っている。どこにいても風が強く、空気は常に乾いている。ペットボトルの水は半日で飲み干す暑さで、聖なる井戸、サンタ・クリスティーナ❿が水の信仰に基づいているのにもうなづけた。精巧に組まれた玄武岩の階段を地下に降りていくと井戸水がある。春分と秋分の日に水底が照らされるように設計されている。

❽モンテ・プラマの巨人

❾サッカルジャ聖堂

❿サンタ・クリスティーナの井戸

⓫カステルサルドのかご職人

⓬モーゴロの織物職人

⓭ビビオーネ

⓮絹のテープを握って歩く女性たち

⓯サッサリのろうそく祭り

⓰民族衣装を来たカプラスの女性たち

サルデーニャの工芸文化も見逃せない。サルデーニャの城を意味するカステルサルドの丘の上には籠の博物館やバスケットの工房がある。魚とり用や食品保存用やフルーツ籠など、用途に応じて様々な編み方や文様が作られてきた。9歳から60年も編み続ける籠職人のピーナさん⓫は、「製作日数で籠の値段を決めるから、4日かかった籠は40ユーロ」と話しながら、乾草を渦巻状にくるくると編み上げていった。モーゴロのサルデーニャの芸術工芸品見本市とサムゲーロのマリアントニア・ウル製織所では、鳥や噴水など伝統的で色鮮やかな模様を織機で織り込む様子⓬を見せてもらった。布地と刺繍を淡い色の結び目で装飾するのはビビオーネという手法だ。花嫁が持参するベッドカバーやカーテンは無数の結び目で覆われ、複雑な模様を作り出す⓭。人は思いを紡ぐ時に、ひも状のものを手繰りたくなるのか。サッサリで毎年8月14日に行われるロウソク祭りでは、昼時に神輿が披露された。鉄職人、大工、石工、肉屋など10の職業のグループごとに用意した巨大な木製の柱には長いテープがついていた。夕方に担ぎ手の男性陣8人が300キロの柱を背負って道を練り歩き⓮、遠くから見守る女性たちはカラフルなテープの端を手にしていた⓯。また、カプラスで出会った女性たちは8月末の裸足祭りのために民族衣装に身を包んでいた⓰。彼女たちの耳や胸元を飾るのは伝統的な銀線細工のアクセサリーだ。サルデーニャのウラッサイに生まれた現代芸術家、マリア・ライ（1919-2013）に至っては、布地にステッチを施すに飽き足らず、ウラッサイの町中のコンクリート壁に鉄線で模様を描いて見せた。

マリア・ライ美術館⓱とニヴォラ美術館⓲、地中海仮面博物館は島の中央にあり、山の側面のヘアピンカーブをドライブしなければ行き着くことができない。バールに集まる人々は誰もが顔見知りという規模の町に、セレブリティはおろか日本人観光客はまず寄り付かない。しかし訪ねる価値はあり、だからこそ『NICHE』で紹介したいと思った。タロス遺跡のスペイン塔では入場の際に日本人かと尋ねられ、東京にある同名のレストラン、タロスの人によろしくと伝言を預かった。まるで、人の行き来が時間をかけて行われていた時代のコミュニケーションのようだ。サルデーニャを知るにはひと月ではとても足りなかった。続きはぜひ、各自が現地で確かめてほしい。野生のフラミンゴ⓳が生息する島では豊かさと素朴さが満ち足りている。（杉原有紀）

⓱駅舎を改装したマリア・ライ美術館

⓲ニヴォラ美術館

⓳カリアリの自然公園のフラミンゴ（撮影：香川浩）

サルデーニャの中近世

島都カリアリの歴史的建造物をめぐって

中島智章

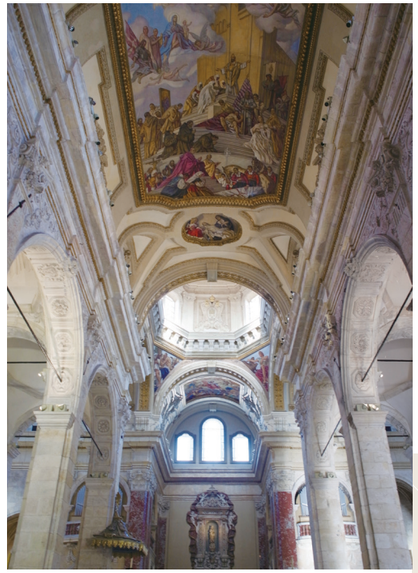
❶サンタ・マリア大司教座聖堂 ファサード（部分）

❷サンタ・マリア大司教座聖堂前　広場

今回のNICHE取材班はイタリアのサルデーニャ島（Sardegna）を取材した。イタリアの領土はヨーロッパ大陸から地中海に突き出したイタリア半島が大きく占めるが、その他に二つの大きな島、シチリア島とサルデーニャ島も含んでいる。サルデーニャ島の北側にはコルシカ島（コルス島）もあるが、ここは1868年にジェノヴァ共和国からフランス王国に譲渡されている。ナポレオン・ボナパルト（Napoléon BONAPARTE, 1769–1821）が生まれたのはその後だ。イタリア半島とサルデーニャ島、シチリア島に挟まれた海域のことをティレニア海という。シチリア島がイタリア半島の爪先からさほど遠くないのに比べると、サルデーニャ島はイタリア半島から200キロメートル以上離れており、独自の文化が根付いているという。

NICHE取材班としては、島の北西に位置するアルゲーロ（Alghero）から時計回りに島を巡っているが、筆者は島の南に位置する島都カリアリ（Cagliari）から合流し、カラスミで有名な西海岸中程の都市カブラス（Cabras）、カブラスとアルゲーロの中間あたりのカラフルな町ボーザ（Bosa）に滞在した。その他、カリアリからは島内唯一の世界遺産「スー・ヌラージ・ディ・バルーミニ」（Su Nuraxi di Barumini）、カブラスからはフェニキア時代から9世紀まで港町として栄えたタロス（Tharros）、タロス消滅後に栄えた内陸都市オリスターノ（Oristano）を訪ねている。有史以前と古代の遺跡についてはイタリアの専門家による別稿に譲るとして、本稿では筆者がもっとも長く滞在したカリアリの歴史的建造物を中心に解説し、併せて中世後期から近世にかけてのサルデーニャ島の歴史にも触れていく。

城壁で囲われたカリアリの歴史的中心市街地の中でも目を引くのはサンタ・マリア大司教座聖堂（Cattedrale primaziale di Santa Maria Assunta e di Santa Cecilia）❶❷だ。カリアリの司教座は初期キ



❸サンタ・マリア大司教座聖堂　内観

❹ サンタ・マリア大司教座聖堂 ファサード第1層
建設当時のままの中央ポルタイユ（大扉）のアーキトレーヴ

リスト教時代までさかのぼるもので、11世紀には大司教座に格上げされていた。現在、サルデーニャ島にはカトリック教会の教区が10存在し、そのうちの3教区が大司教区、7教区が司教区である。カリアリの教区はチヴィタの教区（現在はテンピオ＝アンプリアス大司教区）とともに島内最古の教区で、4世紀に設置されたといわれている。その後、サルデーニャ島は5世紀半ばにヴァンダル王国、5世紀後半から8世紀にかけては東ローマ帝国、8世紀以降はイスラーム勢力に支配された。1022年には都市国家ピサ等の助力を得てイスラーム勢力を逐い、1063年以降、ジューディチェ（giudice）とよばれる指導者が統治するジュディカート（giudicato）とよばれる一種の独立国が4箇所に成立している。すなわち、北からガッルーラ国（Gallura）、ログドーロ国（Logudoro）、アルボレア国（Arborea）、カリアリ国である。アルボレアの中心都市オリスターノと都市カリアリに大司教座が設けられたのはこの頃だ。

カリアリの大司教座は、もともと、サンタ・ジッラ地区（Santa Gilla）にあった。カステル・ディ・カストロ（Castel di Castro）地区（後のカステッロ地区）に位置する現在の大司教座聖堂は、1254年に大司教座の遷座を念頭にして建設され、1258年に大司教宮殿と中心市街地の都市築城建設時に拡張された。大司教座の遷座は1255年から1312年の間だといわれている。13世紀半ばというと、北部フランスではゴシック建築が盛んに建設されていた頃だが、本教会堂はロマネスク建築だった。ピサの影響が大きかったようで、ピサ大司教座聖堂から工匠グリエルモ（Maestro Guglielmo）による説教壇（1154–62）も贈られている。小規模ながら、ピサのサンタ・マリア・アッスンタ大司教座聖堂のような三廊形式で天井は木造❸であり、石造ヴォールトは架構されなかった。身廊と側廊の前にはそれぞれポルタイユ（大扉）❹が設けられた。この時に建設されたロマネスクのファサードは18世紀初頭に取り壊されて現存しないが、中央ポルタイユのアーキトレーヴのみ現存する。もっとも、現在はこのアーキトレーヴなどを除いて、現在の大司教座聖堂からは当時のロマネスク建築の様相はほとんど伺うことはできない。それは17世紀にバロック建築のデザインで大幅に改装されたからである。

カリアリの都市築城
配置図　18世紀

さて、大司教座聖堂建設に先立つ13世紀初頭、カステッロ地区はカリアリの女統治者ベネデッタ・ディ・マッサ（Giudicessa Benedetta di Massa）によって都市国家ピサに譲渡されていた。ピサ建築の影響が強いのもこのような背景があったのだ。この時にカステッロ地区を囲んで市壁が建設され、北門付近にサン・パンクラーツィオ（San Pancrazio）の塔❺❻、西門付近に象（Elefante）の塔❽、南門付近に獅子（Leone）の塔が設けられている。象の塔は現在でもかなり目立つ形でカステッロ地区の南西側にそびえ立つ❼。象の塔の名は塔を貫く門の西手側上方に突き出た象の彫像に由来する。

その後、カリアリはアラゴン王国支配下に入り、1326年以降はカタルーニャ人たちが築城建設を進めていった。15世紀末には副王フアン・ドゥサイ（Juan Dusay, 在位1491–1501, 1502–07）の下で本格的な近世都市築城が建設され、従来の高い城壁と塔をめぐらせた中世都市築城が一新されていく。近世築城は稜堡式築城ともよばれ、前方に突き出した五角形平面の角形のバスティオーネ（bastione）＝稜堡が要所に設けられていることから、そう称される。この築城形式は、15世紀後半あたりから本格的に実戦で運用されるようになっていった火器に対応するため、16世紀前半を通じて試行錯誤が重ねられて成立していった。その時期にカリアリではカステッロ地区の西縁に沿って3箇所、すなわち、北側にサン・パンクラーツィオ稜堡、西側にサンタ・クローチェ（S. Croce）稜堡、南西側にバリーチェ（Balice）稜堡が建設されたのである。さらに南東側にフォンターナ・ボーナ（Fontana Bona）稜堡、獅子の稜堡が計画されたが、この時は未完成に終わった。

❺カステッロ地区北東側　サン・パンクラーツィオの塔背面

❻カステッロ地区北東側　サン・パンクラーツィオ門

❼カステッロ地区南西側　象の塔外観

❽カステッロ地区南西側　象の塔の象の彫像

❿スペローネ稜堡とカステッロ門

❾スペローネ稜堡外観

⓫スペローネ稜堡内側のカステッロ門

一方、1469年10月19日、カスティージャ王女イサベル（後のカスティージャ女王イサベル1世）（Isabel I de Castilla, 1451–1504）とアラゴン王太子フェルナンド（後のアラゴン王フェルナンド2世、カスティージャ王フェルナンド5世）（Fernando II, 1452–1516）が結婚し、1479年に彼らがそれぞれ即位すると、アラゴン王国はカスティージャ王国と連合して、事実上、「スペイン王国」といってよいものが立ち現れつつあった。1516年に彼らカトリック両王（Reyes Católicos）の孫シャルル（Charles de Habsbourg, dit Charles Quint, 1500–58）がカルロス1世として即位して以降、サルデーニャ島は1708年までスペイン王国が統治した。カリアリの築城建設は16世紀を通じて進展し、バリーチェ稜堡、カステッロ門の幕壁（cortina）、スペローネ（Sperone）稜堡❾がカステッロ地区の南縁に沿って整備され、スペローネ稜堡の東側はさらにフォンターナ・ボーナ防塁（Baluarte della Fontana Bona）、ビラヌエバ防塁（Baluarte de Villanueva）をもって防禦強化された。カステッロ地区への主動線は近世においても同地区南東側に位置するカステッロ門（Porta Castello）❿⓫⓮であり、その南面をスペローネ稜堡が防禦する形になっていて、さらに1552年から1553年にかけて、スペイン軍工兵ロッコ・カペッリーノ（Rocco CAPELLINO）によってこれらの周囲にさらなる防禦施設が整備された。現在もこの辺りの仕組みはよく残っていて、徒歩の場合はカステッロ地区と港湾施設のあるマリーナ地区（Marina）を結ぶ距離的にも時間的にも最短の動線だ。なお、カステッロ地区の東側は断崖絶壁となっており、ピサ時代からそれほど強固に築城化されてはいない。したがって、門もないが、現在はエレベータでカステッロ地区の東側の新市街地に行くことができる。

⓬カリアリ市内カステッロ地区の町並み

⓭マリーナ地区のリナシェンテ百貨店

⓮スペローネ稜堡とカステッロ門の西側の幕壁内側

⓯カステッロ地区北西側のクリスティーナ門（Porta Cristina, 1825）

先述の大司教座聖堂はこの断崖絶壁に面している。17世紀を通じてロマネスク建築からバロック建築へと姿を変えていき、まず、大司教フランチェスコ・マリア・デ・エスクィヴェル（Monsignor Francesco Maria de Esquivel, 在職1605–24）により、1612年、殉教者たちの祭室（Cripta-Santuario dei martiri cagliaritani）とよばれるクリプタとプレスビュテリウム（Presbiterio）が新たに設けられた。1669年には大司教ピエトロ・デ・ヴィーコ（Pietro de Vico, 在職1657–76）の下でジェノヴァ人ドメニコ・スポトルノ（Domenico Spotorno）と建築家フランチェスコ・ソラーリ（Francesco Solari）により、壁が高くされ、円柱がピラスターで更新されて、ヴォールトとドームも建設されていく。身廊には新たな説教壇が設置され、従来の説教壇は2分割されて主入口の両側に移設された。ロマネスク建築からバロック建築への改装は、1702年に開始されたファサードの取り壊しによって一巡する。丁度、スペイン継承戦争によりサルデーニャ島がオーストリアのハプスブルク家の統治下に入る直前だった。

スペイン継承戦争（1701–14）は、スペインのアブスブルゴ朝（ハプスブルク朝）がカルロス2世（Carlos II, 1661–1700）の死をもって断絶し、その遺言によって異母姉のフランス王妃故マリー・テレーズ（Marie-Thérèse d'Autriche, reine de France et de Navarre, 1638–83）とフランス王ルイ14世（Louis XIV, roi de France et de Navarre, 1638–1715）の孫アンジュー公フィリップがフェリペ5世（Felipe V de España, 1683–1746）としてスペイン王に即位したことがきっかけとなって勃発した。ここでこの戦争について詳述しないが、その過程で1708年にオーストリアのハプスブルク家の支配下に移り、1713年のユトレヒト講和条約で確定された。だが、この条約でイタリアにおいてサルデーニャ島とシチリア島を失ったスペインは1717年に3万の軍を催して両島を占領し、四国同盟戦争が始まった。この戦争は1720年のハーグ講和条約によってスペイン不利のうちに終結し、両島がスペインの手に戻ることはなかった（1734年にシチリア島の方はスペインのボルボン（ブルボン）家の手に帰した）。

一方、ユトレヒト講和条約によってスペインからシチリア島を獲得し、すでにシチリア王（Re di Sicilia）という王号を手に入れていたサヴォイア公ヴィットーリオ・アメデーオ2世（Vittorio Amedeo II, 1666–1732）はシチリア島とサルデーニャ島を交換し、サルデーニャ王（Re di Sardegna）となった。これが後にイタリア統一運動の中心となるサルデーニャ王国の始まりである。サヴォイア家統治下においてカリアリはサルデーニャ島の中心都市として近代化していく。その際、中心となったのは、もはや、丘の上にそびえるカステッロ地区ではなく⓯⓰、港湾地区マリーナ（Marina）などの新市街地の方であり、現在もリナシェンテ百貨店などの様式建築やアール・デコ建築が一部に残る⓭。

一方、近代化の波から取り残されたカステッロ地区には歴史的町並みが残り、現在ではカリアリ観光の中心となっている⓬。だが、バロック的装いをまとうようになっていた大司教座聖堂の姿を今見ることはできない。フルート（縦溝）付きの大理石製ピラスターが施されたバロック的ファサードは20世紀初頭に取り壊されたのである。その後、1930年代に建築家フランチェスコ・ジアリッツォ（Francesco Giarrizzo）によるネオ・ロマネスク様式のファサードがボナリア（Bonaria）産石灰岩によって建設され、現在の外観が整った❶❷。このファサードはピサ・ロマネスク様式による四層構成で、ピサ大司教座聖堂のように各層にブラインド・アーチ開口部があしらわれ、しかも、各層のコラムの位置が互い違いになっている。非常に高い様式的統一感が保たれており、筆者にも初見でネオものだと感じられた。一般的に建設年代が長きにわたる中世建築において様式的統一感が現れることは極めて稀なのである。第二次世界大戦後も様々な修復事業が建築物や宝物をめぐって実施され、近年では2007年に木工製品、大理石製品、銀製品、オルガンが修復された。

⓰カステッロ地区北端のチッタデッラ入口　アルセナーレ門（1825）

中島智章 Nakashima Tomoaki
建築史家
1993　東京大学工学部建築学科卒業
1995　東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了
2001　東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了
2011　工学院大学建築学部建築デザイン学科准教授

❶オスロ市庁舎ホールの開会式にてスピーチする4人のキュレーター。
左からPhineas Harper, Maria Smith, Cecilie Sachs Olsen and Matthew Dalziel.

❷ノルウェーを代表する建築家スヴェレ・フェーンが改装と増築を手掛けた
国立建築博物館の「図書館」の展示会場

脱成長の建築のゆくえ

オスロ建築トリエンナーレ2019

鈴木敏彦

2019年9月26日から11月24日にかけてノルウェーのオスロで「オスロ建築トリエンナーレ2019」が開催され、筆者はノルウェー大使館渡航助成にてOAT 2019プレスプログラム（9/25-29）に参加した。

OATは3年毎にオスロで開催される国際建築イベントで、2000年の第１回から数えて今年で７回目を迎えた。2019年のチーフ・キュレトリアル・チームは、イギリスの建築家でエンジニアで作家のマリア・スミスと、批評家のフィニアス・ハーパー、カナダの建築家で教育者のマシュー・ダルジエル、そしてノルウェーの都市研究者兼アーティストであるセシリー・サックス・オルセンの4人組が選ばれた❶。今年のテーマは「ENOUGH：脱成長（DEGROWTH）の建築」。温暖化や格差などの課題を背景に、経済成長以降の社会における建築デザインの役割について、様々なアプローチで多角的に取り組む。OAT 2019プレスプログラムの全貌を紹介しよう。

25日、およそ50人のプレスが国立建築博物館の会議室に集まり、4人の若きキュレーターから概要説明を受けた。中でも、イギリスの批評家にして有名なデザインサイトDezeenの若き男性コラムニストでもあるフィニアス・ハーパーがフリーダ・カーロの柄のTシャツにスカートを履いて気を吐いており、熱い意気込みが伝わってきた。彼らの宣言を以下に要約する。「成長の日々は終わった。建築も例外ではない。つまり、脱成長の建築は十分（ENOUGH）と考え、キュレーターが企画した「図書館」、「遊び場」、「劇場」、「大学」を通じて、人間と生態系が共に繁栄する場を設ける」。同館内の「図書館」の会場にはメインテーマに則した80を超えるアイデアとプロジェクトが世界中から集められた❷。「遊び場」の会場であるギャラリーROMでは、「プレイス・リスニング」という無線ヘッドフォを身に着け街に出て、ヘッドフォンから様々な指令にしたがって行動するというイベントに参加した。

26日、「オスロ探検、ヨーロッパの緑化首都2019」に参加し、どちらも2020年完成予定のヨーロッパ最高水準の環境性能を体験する「気候ハウス」と、ゼロエネルギーの「クリンシャー学生寮」の２棟を巡った。前者のプロジェクトマネージャーのオイステン・トロウセド氏に話を伺ったところ、エコフレンドリーの４原則とは、建設材料の排出ガスの50%削減、雨水のためのレインガーデン、ソーラー発電と地域暖房、地域資源活用であった。午後は、工事中の新国立美術館❸を設計者のクラウス・シュヴェルク氏の案内で見学した。ここでもカーボンフットプリントが厳密に計算されていた。その後、ノーベル平和賞の授賞式会場でもあるオスロ市庁舎でのオープニングセレモニーに参加した。

❸北欧最大規模で建設中の新国立美術館の内観

❹高さ85.4 mの木造ビルMjøstårnet
（ミョーストーネット）

た。マリアンヌ・ボルゲン市長のスピーチは、今回のテーマ「脱成長」を聞いて絶句したというエピソードから始まったが、キュレーター達によってオスロの建築に新たな視点が開かれたことを祝した。乾杯のシャンパングラスは格式を感じさせる四角いステムのデザインが印象的だった。

27日、市内のクラリオンホテルの会議場にて国際会議が開かれ、「経済成長なしに建築家はいかに設計するか」という問いかけに会場は熱気に満ちていた。ホワイエでは、ブルムンダルに世界一高い木造複合ビル❹を建設したモエルヴェン社のブースも出展していた。この時間帯の他の選択肢には、オペラハウス（スノヘッタ設計）の正面フィヨルドの海に浮かぶフローティングサウナ体験もあった❺。夜は「劇場」の会場である国立劇場へ向かった。演目はドイツのベルリンの劇団リミニ・プロトコルによる「工事中の社会」である。劇場内部は舞台のみならず客席やバックステージまで幕が張られ足場が占拠し、まさに建設現場の工事中の様相を呈していた❻。観客参加型のライブ感あふれる体験で、連日の講演のチケットがすべて売り切れるのも納得の内容だった。

3日間にわたる駆け足のプレス取材を終えて、ノルウェーにおける環境性能に対する意識の高さを痛感した。オスロを案内してくれた関係者各位と、様々なプログラムを綿密に計画されたOAT事務局、この機会を授けてくれたノルウェー大使館の皆様に心より感謝する。

❻国立劇場にて工事現場を体験する、リミニ・プロトコルの演目

❺オペラハウス前のフィヨルドの海に浮かぶフローティングサウナ

NICHE Passport

海外建築レポート

若者よ、旅に出よ!
工学院大学建築学部同窓会では、
在学生の海外研修をサポートしている。
2019年度の海外渡航奨励金制度を
利用した学生たちからレポートが届いた。

自然が絡み合うクメール建築のカンボジア

伊藤世玲奈 →P.32

Serena Ito / March 11-21, 2019 / Cambodia

Mar. 11　成田発　ハノイ着
12　ハロン湾
13　タンロン遺跡
14　ラオス　ルアンパバーン着
15　寺院建築巡り
16　カンボジア　シェムリアップ着
17　アンコールワット
18　ベンメリア遺跡、トンレサップ湖
19　プレアヴィヒア寺院
20　シェムリアップ発
21　名古屋着

「文化×建築」の手がかりを体感しにフランスへ

川村茉優 →P.36

Mayu Kawamura / May 24 - June 2, 2019 / France

May 24　成田発
25　パリ着
26　オペラ座ガルニエ宮、ルーヴル美術館
27　ポンピドゥー・センター、パリ凱旋門、ルイ・ヴィトン財団美術館
28　サント・シャペル、サヴォア邸
29　ロンシャン礼拝堂
30　リヨンへ移動
31　リヨン旧市街地、リヨン・サンジャン大教会、フルヴィエール古代ローマ劇場
Jun. 1　ラ・トゥーレット修道院、パリ発
2　成田着

イベリアで触れる伝統と商空間

草野ダニエル秀幸 →P.40

Daniel Hideyuki Kusano / August 6-22, 2019 / Spain and Portugal

Aug. 6　成田発
7　バルセロナ着、リセウ大劇場、グエル邸、サンタ・エウラリア大聖堂、カタルーニャ音楽堂、サンタ・マリア・ダル・マル教会
8　バルセロナ現代美術館、バルセロナ現代文化センター、カサ・カルベ、カサ・バトリョ、カサ・ミラ、カサ、ビセンス、グエル邸
9　カイシャ・フォーラム、バルセロナ・パビリオン、コロニア・グエル教会地下聖堂、グエル別邸、サンタ・テレサ学院
10　リスボン着
11　ポルタス・ド・ソル、リスボン港クルーズターミナル、オリエンテ駅、リスボン科学博物館、リスボン万博ポルトガル・パビリオン、アレマン・デ・リスボン学校、ムージカ・デ・リスボン高等学校、バイシャ＝シアード駅
13　ポーラ・レゴ美術館、サンタマルタ灯台博物館
14　ベレンの塔、ベレン宮殿、国立東洋博物館、EDP、リベイラ市場、ブラガンサの集合住宅、ジュリオ・ボマ・アトリエ美術館、サン・ジョルジェ城の考古学遺跡ミュージアム、リスボン大聖堂
15　サント・ティルソ・コールセンター、サント・ティルソの消防署アバデ・ペドローザ市立美術館
16　セラルヴェス現代美術館、ボーダフォン社屋、カーザ・ダ・ムジカ、カーザ・ダ・ムジカ駅、カルロス・ラモス・パヴィリオン、アリアドス通りの都市の再生、サン・ベント駅、ポルト大聖堂
17　レロ書店、レサのスイミングプール、ボア・ノヴァ・レストラン、ポルト大学建築学部、モヌメント・デ・サン・フランシスコ教会、カーザ・ダ・ムジカ、ナイトクラブGare Club
18　ポルト発バルセロナ着
19　サグラダ・ファミリア、カサ・ミラ、カサ・バトリョ
20　グエル邸、サン・パウ病院、ラ・フォンダ・デル・ポート・オリンピック、アブラハム教会、カン・フラミス美術館、バルセロナ自然科学博物館
21　バルセロナ 発
22　成田 着

ポートランド　デザインが町を最高にする

中村祐耶 →P.44

Yuya Nakamura / July 5-17, 2019 / United States of America

Jul. 5　成田発　シアトル着、シアトル公共図書館
6　カフェ・ヴィータ・シアトル・ロースティング、エリオット・ベイ・ブックカンパニー
7　シアトル発　ポートランド着、エースホテル・ポートランド
8　スピン・ランドリー・ラウンジ
10　ローグ・パール・パブリックハウス
11　パウエルズ・シティ・オブ・ブックス、パイオニア・プレイス、ウォーターフロントパーク、ポートランド日本庭園、ウィラメット・リバー・グリーンウェイ・トレイル
12　キーン・ガレージ
13　ポートランド発　シアトル着、バイク・プレイス・マーケット、ヴォンズ1000スピリッツ
14　ミュージアム・オブ・ポップカルチャー、スターバックス・リザーブ・ロースタリー・シアトル、オプティミズム・ブルーイング・カンパニー
15　スターバックス1号店、シアトル美術館 、シアトル発
17　成田着

文化と人種が調和した地 ニューヨーク

鹿糠拓哉 →P.34

Takuya Kanuka / August 19-27, 2019 / United States of America

Aug. 19　羽田発 ニューヨーク着 タイムズ・スクエア グランドセントラル駅
20　エンパイア・ステート・ビル、フラット・アイアン・ビル、ユニオン・スクエア・パーク、ニューヨーク市庁舎、ブルックリン・ブリッジ、ニューヨーク公共図書館、セントパトリック教会
21　ワシントン・スクエア・パーク、自由の女神、ワン・ワールド・トレードセンター、グラウンド・ゼロ、チェルシー・マーケット、ザ・ハイライン公園
22　コロンビア大学、セントラルパーク、ソロモン・R・グッゲンハイム美術館、メトロポリタン美術館、ストロベリー・フィールド、ダコタ・ハウス、アメリカ自然史博物館、メトロポリタン歌劇場
23　トランプ・タワー、タイムズ・スクエア、ロックフェラー・センター
24　エンパイア・ステート・ビル、ハドソン・ヤーズ、ベッセル、マディソン・スクエア・ガーデン
25　ブルックリン地区、サークルライン観光クルーズ
26　ニューヨーク発
27　羽田着

ヨーロッパ諸国の統一感のある街並み

草間純奈 →P.38

Junna Kusama / August 21 - September 5, 2019 / Europe

Aug. 21　成田発　パリ着
22　サント・シャペル、シャンゼリゼ通り、コンコルド広場
23　パンテオン、エトワール凱旋門、バスティーユ広場、イタリア広場
24　パリ発　ロンドン着
26　ロンドン発　アムステルダム着
27　アムステルダム発　チェコ着
28　旧市街広場、ティーン教会、聖ミクラーシュ教会
29　天文時計、プラハ城、カレル橋
30　プラハ発　ヴェネツィア着
31　ヴェネツィア発　ローマ着
Sept. 2　ローマ発　バルセロナ着
4　バルセロナ発
5　成田着

パリの魅力

大泉奈央 →P.42

Nao Oizumi / August 18-29, 2019 / France

Aug. 18　成田発
19　パリ＝シャルル・ド・ゴール空港着
20　アール・ヌーヴォー巡り、フォンダシオン・ルイ・ヴィトン、ラ・ロッシュ邸
21　エッフェル塔、シテ建築遺産博物館、アンヴァリット
22　サント・シャペル、パンテオン、フォーラム・デ・アール、ポンピドゥー・センター、エトワール凱旋門
23　ヴァンセンヌ城塞、グラン・パレ、プティ・パレ、ギャルリー・ヴィヴィエンヌ
24　サヴォア邸、ルーブル美術館
25　ヴェルサイユ宮殿、グランダルシュ、サクレ・クール寺院、フィラルモニ・ド・パリ
26　パレ・ガルニエ、マドレーヌ寺院
27　パリ市庁舎、ベルシー・アリーナ、シネマテーク・フランセーズ、モンパルナスタワー
28　ポンヌフ、マルモッタン・モネ美術館、ロダン美術館、パリ＝シャルル・ド・ゴール空港発
29　成田着

アフリカの発展を建築から学ぶ

鋪田かんな →P.46

Kanna Shikita / January 8 - May 13, 2019 / Uganda

Jan. 8 - Mar. 8　JICAウガンダ事務所でのインターンシップ（首都カンパラ）
Mar. 9 - 20　Ashinaga Ugandaでのインターンシップ（ワキソ県）
21 - May 3　現地建設コンサルPlantek Limitedでのインターンシップ（首都カンパラ）
4 - 7　地方ホームステイ（アルア県）
8 - 11　帰国準備、報告会、挨拶等
12　エンテベ国際空港発
13　羽田着

アンコールワットの日の出
太陽は見えなかったが幻想的な風景

自然が絡み合う クメール建築のカンボジア

Serena Ito / March 11-21, 2019 / Cambodia

旅の目的

東南アジアは、近年発展が著しい。また、フランスの植民地化の影響により、自国とヨーロッパの文化が混ざり合っている。私はそれらを実際に見て、感じたいと思い旅行先を東南アジアにした。また、その中でカンボジアの自然の驚異にさらされた建築を見たいと思った。カンボジアにはユネスコの世界遺産に登録されているアンコールワットをはじめ、様々な遺跡建築が残っている。テレビや写真では見たことあるが、それらでは見ることのできない細部まで見たいと思いカンボジアを訪れることを決めた。

人々の活動を示すアンコール・トムのレリーフ

アンコール遺跡群

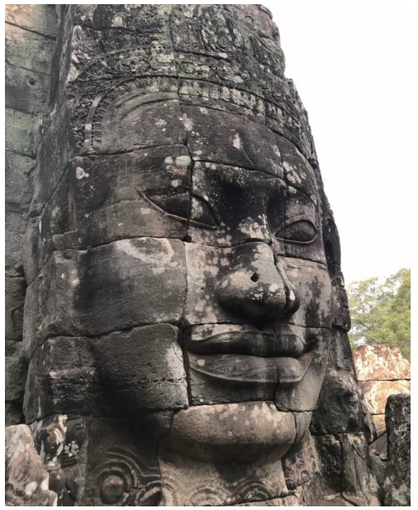
カンボジアの北西のシェムリアップにあり、世界遺産に登録されている。アンコール遺跡群には、大小さまざまな遺跡がある。私は一日トゥクトゥックをチャーターし、主要な大きい遺跡を回った。その中でも、特に印象に残っている遺跡はアンコール・トムの中心にある、バイヨン寺院である。この寺院には、その当時の人々が型取られたレリーフが多く存在する。また、4面に人面像が彫られた塔が存在する。レリーフの模様には、人が拝んでいる様子や働いている様子など細かく彫られており、立ち止まって見入ってしまうほどだった。また、大きな人面像に囲まれた空間では、日本では感じることのできない宗教の力を感じた。

自然によって崩壊した建物

自然と建物が絡み合う

ベンメリア遺跡

ベンメリアは、アンコールワットの東、約60キロに位置する。以前は、ベトナム戦争の地雷があり中に入ることは危険とされていた。しかし、2006年に地雷の撤去が終了し、近年は観光地化が進んでいる。周辺には木々が立ち並び、森の中に建てられていた寺院の遺跡は、自然の力によって崩壊がとても進んでいた。建物のがれきには木々の根っこが絡まり、新たな芸術となっていた。手が付けられない程の植物が絡み合う建築は、自然の驚異を教えてくれると共に、人間がちっぽけであることも感じさせてくれた。



バイヨン寺院の人面像　約2mの大きさで迫力がある

プレアヴィヒア寺院

プレアヴィヒアはカンボジアとタイの国境の標高600mのダンレク山地の上にある寺院である。国境にあるため、2013年までカンボジアとタイが領有権を争っていた。山頂に向かって800mの参道を歩いた。その途中には5つの門があり、高低差の影響から、くぐり抜けるまで先の景色が見えない構造になっていた。この時代から、視線を意識した建築があることに驚いた。また、同一な門はなく様々なデザインのレリーフがあしらわれている。ヒンドゥー教の寺院であるが、ヒンドゥー教の衰退後は仏教寺院となった。そのため、仏教をモチーフにしたレリーフが飾ってあり独特の雰囲気を醸し出していた。断崖の頂上にあり、カンボジアの大地を一望できた。

旅を終えて

今回の旅では、自然の驚異を目の当たりにすることが出来た。これまでは、自然による建物の破壊は奇跡的、異質的な光景と考えていた。しかし、実際にそれらを見て、現地の人の話を聞き、これらは普遍的、当たり前のものではないかと考えた。人間は、自然を破壊することで土地を開拓し建物を建てた。しかし、人間が手を加えなくなると、今度は自然が、建物の破壊を行った。これらは、当たり前のサイクルであると感じた。私はこれから建築家を目指す中で、今回見て学んだことを生かし、自然との共存を考えていきたいと思う。

伊藤世玲奈
Ito Serena

1998
三重県生まれ

2017
三重県立桑名高等学校
普通科卒業

2017
工学院大学建築学部入学

2019
工学院大学建築デザイン学科
（樫原研究室）

将来の夢
世界で活躍する建築家になる

ニューヨーク・マンハッタンの夜景

NICHE Passport

文化と人種が調和した地 ニューヨーク

Takuya Kanuka / August 19-27, 2019 / United States of America

旅の目的

ニューヨーク・マンハッタン島の面積は59.5km^2。これは東京の山手線の内側ほどの広さである。その中には初期の高層建築と近代的な高層ビルが建ち並び、摩天楼と称されており、様々な人種が生活している。アメリカ映画を愛する私は、子どもの頃から画面越しにニューヨークの風景を見てきた。建築やまちづくりを学ぶにつれ、ニューヨークにさらに興味が沸き、実際に街を歩いてみたいと思い、渡航を決めた。

街並みについて

マンハッタンの街は横のストリート、縦のアベニューにより碁盤の目状になっており、単純であるが合理的であり、道に迷いにくい。観光クルーズの際、高層建築が建ち並んでいてもきれいなビルの谷間が見えたのはマンハッタンならではと感じた。地区を大きく分けるとアップタウン・ミッドタウン・ダウンタウンの3つとなる。どの地区にも公園やパブリックスペースがかなり設置されており、街に彩りを与える。都会の喧騒の中でも人々はリラックスしている。1960年代の作家のジェイン・ジェイコブズによる「人やコミュニティがまちを作る」という考えから今の活気あるニューヨークができたのである。建物の半数は戦前に作られたものであるが、壊して立て直すよりも、リノベーションや保存・再生活動が活発である。そのため現在進行形で足場が掛かっている建物は多い。日本においては、洗濯物の外干しがよく見られるが、ニューヨークでは一切見当たらなかった。これは乾燥機の登場につれ、外干しは景観を損ない、治安が悪いというイメージが付き、不動産価値が下がるためであり、景観への徹底に感心した。

アップタウン

マンハッタンの北側、アップタウン。ここには南北4km、東西0.8kmからなるセントラルパークがあり、その周辺ではメトロポリタン美術館やグッゲンハイム美術館などで芸術文化に触れられる。この地区は他の地域よりも時間がゆっくり流れているように感じる。忙しないニューヨークのオアシスである。

ミッドタウン

タイムズ・スクエアやエンパイア・ステート・ビルなど誰しも聞いたことのあるスポットが集う。ブロードウェイなどのエンターテイメントの聖地であり、映画のロケーションに使われることが多い、まさにニューヨークといった地区である。

ダウンタウン

ニューヨークは世界三大金融都市の一つであり、この地区には金融街があるため、他の地域とはまた違ったオフィシャルな表情を見せる。また9.11博物館や自由の女神など、アメリカの歴史を感じさせるオブジェが多く存在している。平均ランチタイムが5分といわれるニューヨークのビジネスマンを筆頭に、アップタウンとは正反対の印象を与える。

足場が組まれている工事中の建物

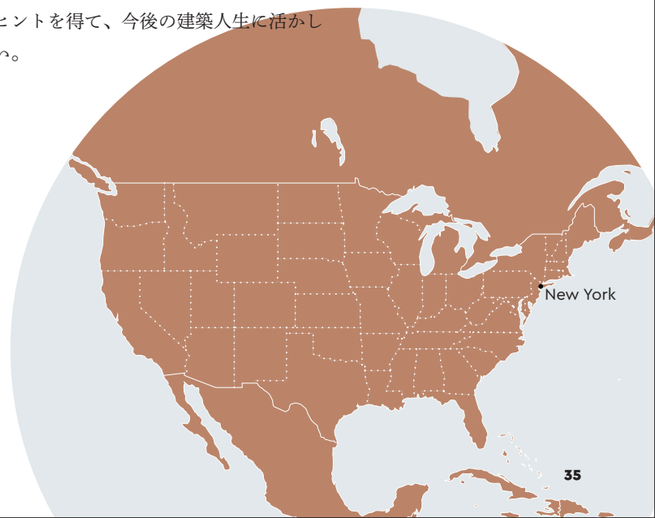
メトロポリタン美術館

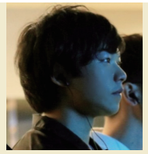
エンパイア・ステート・ビルから見える
NY碁盤の目状の街

9.11メモリアル グラウンド・ゼロ

旅を終えて

今回8日間ニューヨークに滞在し街を歩くことで、建築や文化や言語など日常とは違う経験をし、一人でも出来ることの幅が広がり、成長したのではないかと思う。また今後ニューヨークが舞台の映画を鑑賞する際には背景にも注目し、より一層楽しめるだろう。そして、人々を魅了するニューヨークからヒントを得て、今後の建築人生に活かしていきたい。





鹿糠拓哉
Takuya Kanuka

1997
青森県生まれ

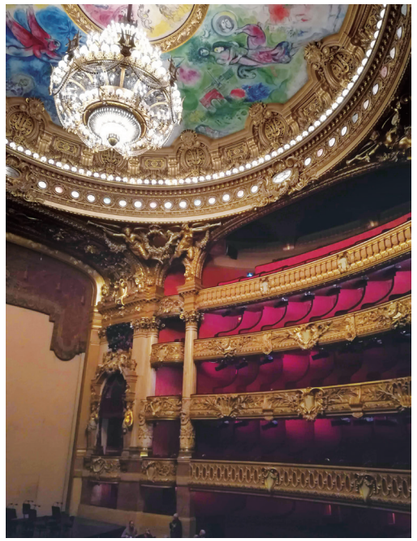
2016
青森県立三本木高等学校卒業

2016
工学院大学建築学部総合入学

2020
工学院大学建築学部まちづくり学科
（遠藤新研究室）卒業

2020
スターツCAM入社

将来の夢
映画に登場するような
美しい建物・ロケーションを造る



客席側も「見られる」構想で作られた、オペラ座ガルニエ宮の劇場

NICHE Passport

「文化×建築」の手がかりを体感しにフランスへ

Mayu Kawamura / May 24 - June 2, 2019 / France

旅のはじまり

今回の旅は私にとって初めてのヨーロッパであり、初めての海外一人旅である。私は子供の頃から芸術文化であるクラシックバレエが好きで、成熟の拠点となったフランスに、ヨーロッパの中でも大きな興味を抱いてきた。文化の発展と都市の形成と近代建築巨匠ル・コルビュジエの活躍したフランスには、日本にはない、人々が輝く秘密が何か潜んでいるはずだ。そんな漠然とした探究心から始まった旅では、建築が人々の生活に及ぼすこと、人々の文化が建築に及ぼすことに着目する。都市における人の豊かな暮らしを設計するためのきっかけをつかんできたい。ここでは、旅で訪れた中から3つの建築を元に報告する。

芸術と建築の関係——オペラ座ガルニエ宮から

オペラ座ガルニエ宮は、当時の前衛的な建築家であるシャルル・ガルニエが建設に取り掛かり、1875年1月に竣工したオペラ座である。ロビーではじめに目にする、美しいカーブを纏う大階段のある高さ30mの吹き抜け空間では、多くの人々が上り下りしたり、留まったりしていて常に賑やかだ。さらに中に進んで、劇場に入ると、まず、緩やかなドーム形の天井の絵画に目がいく。バレエの作品の中からストーリーを絵に起こしたものは、上から求心性を持って観客とステージを一体にさせる。円を描いたような平面を窓越しに覗くように側面の3/4全体に観客席が配置されている。これにより、ステージ上だけではなく、劇場空間全体が芸術を作り上げていると感じる。私は内部空間では芸術が成熟されてきたことを想像し、外観からは威厳のある様子を誇示してきたことを思い、建築が都市や人々に与える影響を強く感じた。

朝方の青空の下のロンシャン礼拝堂ファサード

1日の中で建築を体感する——2つのル・コルビュジェ建築から

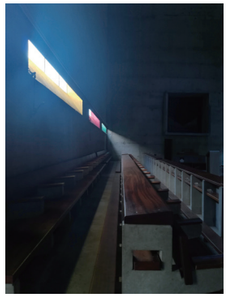
ロンシャン礼拝堂では丘の下のホテルで1泊し、ラ・トゥーレット修道院ではその中の1室にて1泊し、計2日にわたって、時間の変化を建築の中で体感した。ロンシャン礼拝堂では、夕方は、礼拝堂を外から眺めて過ごしたくなり、朝方は、礼拝堂の中にいて修道士たちの歌声を聴きながら時間を過ごしたくなった。また、天候の違いでも建築の見え方が変わることがよく分かった。ラ・トゥーレット修道院では、日が落ちて上る動きを通して、時間によって心地よい場所が変化すること、だからこそ感じる機能の忠実さから、全体を通して厳かな空間だと強く思った。

旅を終えて

教科書だけでの学びであったヨーロッパの建築を、実際に自分が入りこみ暮らし体験したことで、そこにのびのびと時間を過ごす人々のあり方を体感することができた。力強い建築、そこに人々が自分なりの時間の過ごし方を積極的に当てはめていく。そんな印象をフランスで受けた。建築と人々はお互いに自立しているからこそ、それぞれの美しさが輝いて見える。用途や求められていることによって、どんな空間の作り方が良いか。これからもたくさんの場所に足を運び、人々の多様性を学びながら建築を考え、柔軟に思考ができるような設計者を目指していきたい。

ラ・トゥーレット修道院の北側ファサード

昼過ぎ、ラ・トゥーレット修道院の食堂にて



夕方頃、ラ・トゥーレット修道院の聖堂にて

川村茉優
Mayu Kawamura

1997
東京都生まれ

2015
東京都立豊多摩高校卒業

2015
工学院大学建築学部入学

2019
工学院大学建築学部
建築デザイン学科
(澤岡研究室)卒業

2019
工学院大学工学研究科建築学専攻
(冨永研究室)入学

将来の夢
建築を通してみんなが
輝くような設計をすること

パリ　サクレ・クール寺院前

NICHE Passport

ヨーロッパ諸国の統一感のある街並み

Junna Kusama / August 21 - September 5, 2019 / Europe

はじめに

私は映画鑑賞が趣味でよくヨーロッパの街並みを巡る映像を見て、日本では見たことの無い街並みや人の賑わいに魅力を感じた。日本の都市は古い寺の近くにタワーマンションが建てられ、広告物と街並みが混在しており「景観」に対しての意識が欠けていると感じることがある。一方ヨーロッパ諸国には街やエリア全体が世界遺産として登録されている場所が多く存在する。そのため今回統一感のある街並みを見に行くために、8都市を渡航する計画を立てた。その中で日本とは違った賑わいと魅力を感じた街並みを３つ紹介しようと思う。

景観を重要視するパリ

フランスの首都であるパリは世界観光機構によると国際観光客数は世界一であり、最も人気のある観光都市だ。古い街並みが続くパリ中心部には一部を除き、高層ビルは建てられていない。そのため高い建物や丘の上から、広がる空と壮大な眺めを体験できる。石造りの建物が並ぶ街並みは日本と違い看板や色彩も控えめで落ち着いた気持ちになれた。階数には高さ制限があり、屋根裏を入れて7階建ての建物が多い。洗濯物を干すことやバーベキューは市や町自体で禁止しているなど景観を維持するための取り組みが実施されている。

中世の街並みを残すプラハ

プラハ　旧市街広場

カレル橋とプラハ城

チェコの首都であるプラハは街全体が世界遺産として登録されており、現在にいたるまで中世の建築物がそのまま残されている。そのため街のあちこちに歴史的建造物が多く存在し、まるでおとぎ話の世界に入り込んだかのような感覚を味わえた。プラハの中心地にある旧市街広場は世界遺産に登録されており、観光客と住民で賑わいを見せていた。この広場にはゴシック様式のティーン教会やバロック様式の聖ミクラーシュ教会などの様々な建築様式の歴史的建造物が並んでいた。また旧市街から出た小高い丘の上のプラハ城からはかつて神聖ローマ帝国の主要都市だった歴史もあり「黄金のプラハ」と称されるほどの美しい街並みを見ることが出来た。

運河の街アムステルダム

オランダの首都であるムステルダムは、アムステルダム中央駅を中心に市内に網の目状に広がっている。運河沿いの住宅は間口が狭く隣の家と接して建設されており、間口は平均約5mで狭いところでは約2mの建物もあった。しかし外観とは裏腹に奥行きは15m～20mあり、カフェや店に入るとその広さに驚いた。同じ高さと形状の建物が並ぶ中、色彩と窓はそれぞれ違ったデザインが施されており、街並みは統一感がありつつ個性的な建物に魅力を感じた。水の都とも呼ばれているアムステルダムは運河沿いに座り食事をする人もおり、落ち着いた雰囲気だった。一方夜は麻薬や売春が合法なため、違った雰囲気を持つ街でもあった。

アムステルダム　運河沿いの住宅

アムステルダムの夜

草間純奈
Junna Kusama

1998
東京都生まれ

2017
東京都立日野高等学校卒業

2017
工学院大学建築学部
建築学部総合入学

2019
工学院大学建築学部まちづくり学科
（遠藤新研究室）在学

将来の夢
そのまちに合った付加価値を
与える仕事がしたい

ボア・ノヴァ・レストラン (Casa de Té de Boa Nova)

ボア・ノヴァ・レストラン内観

NICHE Passport

イベリアで触れる伝統と商空間

Daniel Hideyuki Kusano / August 6-22, 2019 / Spain and Portugal

旅の目的

私は学部3年より研究室で商業建築を専攻している。街を知りそこで過ごす中で多くのことを学び商業空間を体験することができる。今回の旅程では、「建築そのものの空間を体感する」ことと、建築からまちに滲み出る人の賑わいと振る舞いに着目し、修士論文のテーマである「Night Lifeと商空間の関係性」にも目を向け、スペインのバルセロナとポルトガルのポルトとリスボンを巡った。

カタルーニャ音楽堂（Palau de la Música Catalana）カフェテリア

カタルーニャ音楽堂　バルセロナ

リュイス・ドゥメナク・イ・ムンタネーは、ガウディと同じくモデルニスモに影響を与えた。彼が設計したカタルーニャ音楽堂は、1997年にサン・パウ病院とともにユネスコの世界遺産に登録されている。この音楽堂は、モデルニスモ様式で設計されており、カタルーニャ・ルネサンスにおいて中心的な役割を果たしていたオルフェオ・カタラ合唱団のために設立された。カタルーニャ音楽堂には、ツアー見学か、コンサートを見る以外では入場できない。しかし、1階はカフェとなっており誰でも入ることができる。内装はとても優美で、ディティールまで丁寧に作られている。コンサートホール部分の客席は座りやすく、天井に施された装飾は見入ってしまうほどのモノであった。今もなお使われ続けていることにとても意味がある。この場で過ごす時間から建築がもたらす空間と人々が集う空間を実感した。

ボア・ノヴァ・レストラン　レサ・ダ・パルメイラ

アルヴァロ・シザ初期の建築。1958–1963年に建てられた。立地的にとても特殊な場にあり、シザの建築への理解の深さが見てとれる。もともとはティーハウスとしての機能を有していたが、現在ではレストラン、バーとして使われている。現在もポルトガルの創作料理を提供している有名なレストランである。白い外装と木の内装は高級感のある空間を生み出し、海に面した客席はどのレストランでも味わえないような体験を提供している。サービスを最大に引き出すための設計がなされており、素材、席のレイアウト、食事をするための体験と商業建築を学んでいる人にとってとても勉強になるプログラムや建築操作が多く含まれている空間であった。

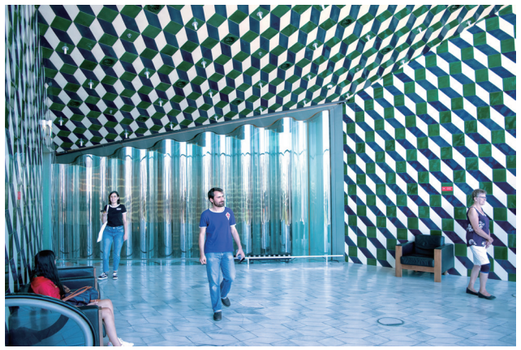
カーザ・ダ・ムジカ　ポルト

OMA（レム・コールハース）設計の国際コンペによる音楽ホール。緩やかな起伏の多い敷地に対して岩のようなフォームの建築。小ホールと大ホールがあり、ポルトガルの風土を活かした内装。メインの大ホールを中心とし、パッサージュに沿って、周辺を取り巻くようにスケールと性質が異なる音楽空間が配置されている。また、ナイトタイムにはコンサート上映があり地域の人々や旅行客にとっても賑わいの場となっている。建築がもたらす日中の空間と夜間の空間はまちの賑わいに大きな影響を与えていると感じた。

旅を経て

今回の旅では、建築空間だけでなく海外でのナイトライフ体験を通じて建築空間と商業空間利用の可能性を感じた。そこには建築家がデザインしたものから偶発的に成り立っているものもある。海外での考え方を参考に、今後開発が進む東京の商空間の研究につなげていきたい。

カーザ・ダ・ムジカ (Casa Da Musica)



カーザ・ダ・ムジカ内観

草野ダニエル秀幸
Daniel Hideyuki Kusano

1994
静岡県生まれ ブラジル育ち

2013
静岡県立御殿場南高等学校卒業

2014
工学院大学建築学部
建築総合学科入学

2018
工学院大学建築学部建築
デザイン学科（塩見研究室）卒業

2018
工学院大学大学院工学研究科
建築学専攻（塩見研究室）

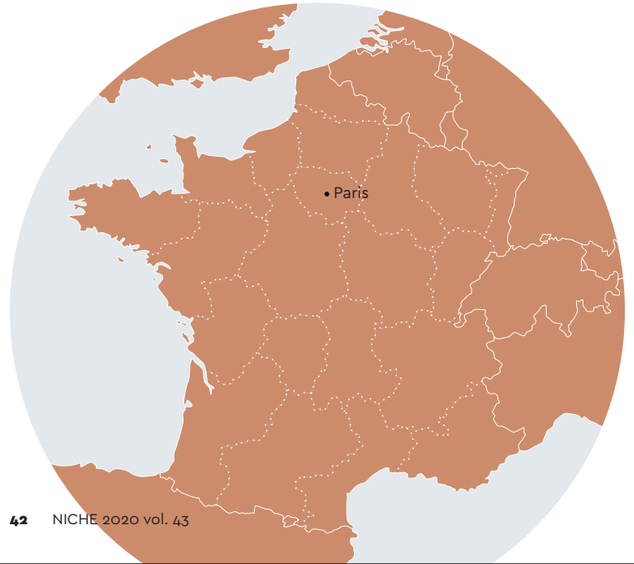
将来の夢
商業建築を学んだ経験を生かして、
インテリアデザイナーとして
活躍していきたい

凱旋門の上から見た町並み

パリの魅力

Nao Oizumi / August 18-29, 2019 / France

1年生の後期の西洋建築史でゴシックの教会建築に魅せられてから訪問したかったフランス、パリ。西洋建築に限らず、近代建築やまちづくりにも先進的なパリに行けるチャンスを逃すまいと、今回の海外渡航制度に応募した。貴重な2週間で得られた経験をここで紹介し、少しでもパリの良さを伝えたいと思う。



パリ大改造計画

パリに着いてはじめに向かったのはエトワール凱旋門。地下鉄から出た瞬間、目の前に立つ巨大な凱旋門に感嘆すると共に、目の前に広がる、入るのも出るのも難しそうな7車線のラウンドアバウトに驚いた。凱旋門は石で繊細な装飾が施されており、圧倒的な存在感があるが、一番の魅力は凱旋門の上から見たパリの町並みにある。エッフェル塔の上からの町並みは無秩序に見えるのに対し、凱旋門の上からは、パリ改造によって作られたエトワール（星）型の放射状に伸びている道路と、整頓された綺麗な町並みを見渡すことができる。また、フランス革命200周年に始まった、パリ大改造計画（1853-1907）の一環で計画された新凱旋門（グランド・アルシュ）(1989)がシャンゼリゼ通りの遥か彼方に見える。改造計画により絶えず進化を続けるパリのまちを眺望できた。

ゴシック建築とアール・ヌーヴォー

360度ステンドグラスで囲まれているサント・シャペル(1248)。2階の上層礼拝堂は誰しも息を飲むような空間であり、降り注ぐ光がステンドグラス越しに差し込み、幻想的で魅惑的な空間を生み出している。外観は色がないのに対し、内観は装飾が金で統一されており、その上ステンドグラスで色も光もあるので、そのギャップに中に入ったときの衝撃が凄く今も忘れられない。

それに加え、私が好きなエクトール・ギマール（Heclor Guimard, 1867–1942）がデザインした、パリの地下鉄の入口（1900-1913）を4つ見つけることができた。くねくねした蔦が入口を形成しているかのような、植物模様と流れるような自由曲線が特徴的な入口は、パリの町中でも劣らぬ存在感を醸し出している。

サント・シャペル 2階の礼拝堂

エクトール・ギマールがデザインしたパリ地下鉄の入口

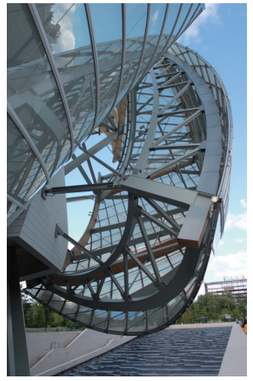
フォンダシオン・ルイ・ヴィトン

構造や施工の点で一番心に響いた建物は、エトワール凱旋門から地下鉄で15分の距離のブローニュの森の中にある美術館、フォンダシオン ルイ・ヴィトンだ（2004）。芝生が生い茂った場所に浮かび上がるガラスの舟のように曲線状のガラスで覆われているのが特徴的で、この美術館そのものが展示物のような躍動感溢れるデザインだ。美術館本体は曲線ではなく角切りされて丸みを帯びているRC構造で、ガラス膜の支持材に木が使われているのがより魅力的だった。建築家は、稀代の天才と言われている近代建築の巨匠フランク・ゲーリー。施工は、フランスのVINCI社。世界中の名建築や難工事も数多く手がけていて、ゲーリーの作品にはうってつけの会社である。

この旅を終えて……

フランスでは西洋建築の改修工事が近代以前から繰り返されてきた。歴史的価値の高い建築であっても大胆な増改築や用途の転用に躊躇しないので、近代建築から西洋建築に至るまでの様々な時代の建物が多く現存できるのだと思う。それらが個性を主張するように存在しているが、パリ改造による街整備によって、市内全体が統一感のある綺麗な街並みになっていると感じた。パリには多くの歴史を乗り越えてきた建物が存在する。私も長く使われ愛される建物を沢山作っていきたい。

フォンダシオン ルイ・ヴィトン



大泉奈央
Nao Oizumi

1998
埼玉県生まれ

2017
開智中学高等学校卒業

2017
工学院大学建築学科入学

2019
工学院大学建築学科
（遠藤和義研究室）

2021
株式会社竹中工務店入社予定

将来の夢
沢山の有名な建築の
施工に携わりたい

NICHE Passport

ポートランド
デザインが町を最高にする

Yuya Nakamura / July 5-17, 2019 / United States of America

ポートランドのリビングと呼ばれるパイオニア・プレイス

豊かなデザインに憧れて

東京の街で生活していると最高だと思えるデザインに出会えることがある中、建築教育にある種の疲弊を感じてしまった。リベラルでサステイナブルな価値観を共有し、全米で住みたい街No.1と言われるオレゴン州ポートランド。優れた街を作り上げた価値観とは一体何なのか。消費者レベルでのニーズを探るため、設計コンペのグループワークを日本と遠隔のノマドワークで行う中で調査を行った。

ずっと居たくなるランドリー
スピン・ランドリー・ラウンジ

カフェを併設したコインランドリー。退屈な洗濯の待ち時間に居心地の良いサードプレイスを与えた新しい仕組みとして有名になった。私は計3 日間訪れ、5 時間、9 時間と長居して作業した。午前中は無料 wifi とコンセントを利用し、仕事をする1 人のワーカーが多く、オーナーも客席で仕事をしていた。犬連れの客も多く、飼い主同士の交流が始まっていた。Mac を開く私の横で小型犬が一緒に座っていて、ドッグフレンドリーと言われるポートランドらしさを象徴していた。夕方になると家族連れや仕事終わりの住民が集まり、活気が生まれていた。カフェのテーブルにはゲームやジェンガがあり、コーヒーやビールを飲みながら楽しむ様子が見られた。ポートランドにはカフェやマイクロブルワリーが多く、朝から夜まで空いているため個人の利用時間が長く、席数が少なくても、満席になることは無かった。それぞれのお気に入りのコミュニティに集まる姿があちこちで見られたのは心地が良かった。

町全体でおもてなし　エースホテル・ポートランド

ポートランドのアイコンと言われるエース（ACE）ホテルは1999 年にリノベーションしたホテルで、フラットでローカルな価値観をコンセプトに、ラグジュアリーホテルと一線を画し世界的に有名になった。今回の宿泊で私が感動したのはディテールへのこだわりである。宿泊者、地域住民が集まる小さなロビーはACE ホテルの世界観をよく表しているが、客室のディテールには感動した。フローリングやシンクからは使い込まれた年月そのままの歴史を感じることができ、蛇口の締まりはミリ単位でギリギリに収まる緻密さで、地元オレゴンで織られた毛布、チップ用の封筒などは温もりを感じさせるデザインであった。壁にはアーティストによるアートが描かれていた。素材、形、サービスに至るまで、サステイナブル、ローカル、セルフビルド、アートといった創設者の価値観を肌で感じた。

センスが町を作り出す

今回のデザインの調査では、モノのデザインよりもヒトのデザインを感じることができた。カフェの中心はバリスタであり作業場は会話の中心だった。アートやデザインは町中を彩っていた。生産活動が重きに置かれ、空間だけでなく全てにおいてセルフビルドの概念が浸透し、街が作られていく。担い手としての一般市民が見えてきた。設計行為ではなく結果として形になったデザイン性がほとんどで、視覚的に歴史や手垢がみえるディテールは高い価値観の結晶だった。

中村祐耶
Yuya Nakamura

1995
神奈川県生まれ

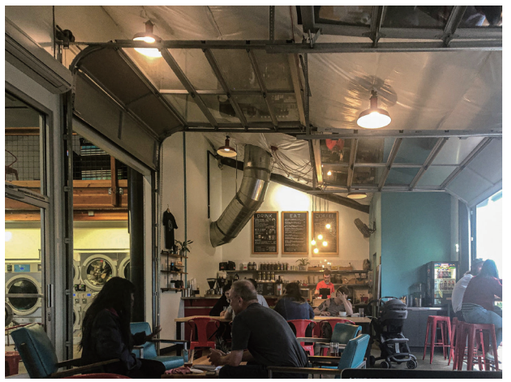
2014
神奈川県立海老名高等学校卒業

2014
工学院大学建築学部総合入学

2018
工学院大学建築学部
建築デザイン学科
（塩見研究室）卒業

2018
工学院大学大学院工学研究科
建築学専攻（塩見研究室）

将来の夢
デザインで世界を幸せにする



スピン・ランドリー・ラウンジ

エースホテル・ポートランド、ミニマムなロビー

エースホテル・ポートランド、空気感のデザイン

閉館後の美術館でアートイベント

アフリカの発展を建築から学ぶ

Kanna Shikita / January 8 - May 13, 2019 / Uganda

木々の緑と赤茶色の建物が美しいウガンダのまちなみ

アフリカで建築を学ぶ

アフリカと聞いて想像するものはなんだろうか。灼熱、大自然、未開の地、貧困などさまざまだろう。私は2019年1月から東アフリカにある、ウガンダ共和国に約5ヶ月間滞在した。比較的長期間の滞在で、JICAにて国際協力分野の活動も行なったが、今回は約１ヶ月間インターンシップを行なったウガンダの首都の現地建設コンサルティングでの活動、地方でのホームステイの2つを通して得た、私の体験と見解を紹介していきたい。

ウガンダと日本の建築

アフリカの多くの国には、赤土が広がっている。赤色や茶色、灰色の低層建築物だけでなく、ウガンダには「アフリカの真珠」と呼ばれるほど緑が豊富で、美しい景観を望むことができる。近年、首都カンパラには高層ビルやマンション等が増加しており、その美しさは失われつつあるが、都心から一歩出るだけですぐに出会うことができる。

インターン先の建設コンサルティングでは、現場を視察する機会が多くあり、安全管理や人材管理を日本と比較しながら、現地の文化や気候にあった方法を実際に見ることができた。特に災害対策の点で、地震がほとんどない国なので、構造設計が日本と比べて大きく異なっていた。煉瓦の製成を仕事にしている家庭や企業が多いことは、ウガンダの建築を象徴している。

ウガンダ国内には約250人の日本人が滞在しており、日本食を提供する店がいくつか存在している。その中の一つ、日本食料理店に加え、カフェやアクセサリー店などの商店も入った施設は、TERRAIN architects（テレインアーキテクツ）が設計したもので、日本人がよく集う場所となっている。ウガンダには少ない木造建築で、丘陵地に足場材として使われる木材を活かした建物である。日本食はもちろんのこと、日頃木造建築に親しんできた私たちにとって、ウガンダにいながらどこか懐かしく心温まる場所である。

地方ホームステイ

首都と大きく違い、アルア県では茅葺き屋根で土壁の住宅がほとんどであった。滞在期間中の夜に、台風並みの強風が一晩中続いたことがあった。住宅棟周辺の木のおかげで幸い大きな被害はなかったが、部屋中に折れ枝や土が散乱する状況となった。電気や水などの生活インフラに加え、災害に強い住宅の整備の必要性を感じたと同時に、昔からの知恵を利用して生活する地方の暮らしと首都の暮らしの大きな違いを目の当たりにした瞬間であった。

日本に帰国して

今回の滞在では、他国の建築についてだけでなく、自身に必要な知識やスキルを学ぶことができた。インフラを整えている段階であるアフリカで、建築関係で仕事をしていくことは、課題や困難が多い。しかしその反面、この国は素晴らしいポテンシャルを持っており、何かに取り組むには絶好の場所ではないかと思う。ハード面では日本の技術の高さを活かし、ソフト面ではウガンダのゆったりした時間の流れを活かしていくことができれば、可能性は大きく開けると感じている。今回の滞在を終えて、いつかアフリカを拠点にして活躍できる人材になりたいと強く思った。そのためにこれからも努力を重ねていきたい。

高層ビルが増え始めた首都カンパラのまちなみ

ユーカリ材を活用した丘陵地にある商業施設「やま仙」（TERRAIN architects設計）

現場の様子

首都からバスで7時間、アルア県のホームステイ先の住宅棟の一つ

鋪田かんな
Kanna Shikita

1996
福岡県生まれ

2015
実践女子学園高等学校卒業

2015
工学院大学建築学部入学

2018
工学院大学建築学部
まちづくり学科（野澤研究室）

将来の夢
世界で活躍する建築家。
教育施設を設計し、多くの
子どもたちの可能性を広げる

白樺湖夏の家

「白樺湖夏の家」は、かつて工学院大学の学寮として長く使われていた施設を、2016年に工学院大学建築系同窓会が保存・活用のために引き継いだものである。設計者の武藤章（1931–1985）が学んだフィンランドの建築家アルヴァ・アアルトの影響が強く感じられる空間は、築51年を経た現在も魅力を失っていない。

これまでと同様に会員制別荘としての利用のほか、昨年度受賞したJIA25年賞の記念イベントと、長野県内にあるもうひとつの武藤章建築「タテシナクラブ（1965）」にてDOCOMOMO Japan選定プレート贈呈式が2019年7月13日に併せて催された。

DOCOMOMO（ドコモモ）とはモダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織で、「タテシナクラブ」は日本を代表するモダニズム建築（No.222）に列されたということである。これら一連の受賞は、早世した建築家の武藤章を再評価する機運が高まっていることの現れであろう。

このふたつの建築は、設計者が同じというだけでなく、工学院大学の教育と深く関わっている。1958年の夏、工学院大学建築学科の学生たちが白樺湖を訪れたことから物語は始まる。学生寮がテーマのコンペの現地調査ということであったが、指定された敷地ではなく自ら選定したのが白樺湖で、その理由は「日本列島の重心」であるからだそうだ。コンペに入選し、その実績を持って野口尚一学長に直談判し、学生たちの熱意が大学に届き建設されたのが「白樺湖山ノ家（1959）」である。この時は天野太郎助教授のスケッチを元に南迫哲也助手が図面を担当した木造12坪の簡素な施設であった。その数年後、やはり学生たちのグループ（美術意匠部）が武藤章助教授の元を訪れ「自分たちの山小屋をつくりたい」と相談した。最初は小さな計画であったところを「自分の家を持ったような気持ちになって山荘を設計したらどうか」と提案し、それが実現したのが「タテシナクラブ（1965）」である。場所は白樺湖北東の約5キロにある女神湖畔で、武藤は「白樺湖山ノ家」で基本設計をまとめたそうである。こうして白樺湖、女神湖に拠点ができ、学生だけでなく武藤自身も家族を連れて利用したそうである。そして白樺湖の施設の充実を図るために武藤の設計で建て直されたのが「白樺湖学寮（1968）」つまり現在の「白樺湖夏の家」である。それぞれの設計・施工にあたって、在学生や卒業生たちの協力があった。

このように、先ず学生たちのアイデアが発端となり施設が建設されるという、いわば近年流行りのプロジェクト型の設計演習が、半世紀前に長野県を舞台に展開されていたのである。それが単発のイベントに終わることなく、長期にわたって運用されている事実が、工学院大学の建築教育の質の高さを示していると言えるだろう。かつての学生たちはいい大人となり、今も設計者とのコミュニケーションが続いている。

（香川 浩）

歳時記2019
白樺湖 夏の家

5/1-2
開館、通水、大掃除、外構工事

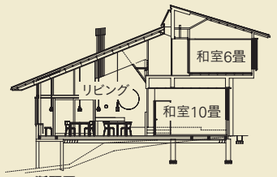
鈴木研究室の学生15人に加えて、工学院大学の建築学生プロジェクトWA-K.proの10人が参加し夏の家の外構工事を行った。夜には企業会員である三建設備工業株式会社の羽澤雄一氏から10kgの肉のかたまりを差し入れていただき、塩胡椒とローズマリーをすり込み、ピザ釜で焼いて美味しくいただいた。いつもながらの支援に感謝した。

5/31–6/2
外構自力工事
「アアルト好みの段々の庭」

波多江宏氏によるランドスケープ基本計画に基づいた外構工事の続き。アルヴァ・アアルト作品の庭に見られる階段形状に、鈴木研究室の4年生4人と、建築学生プロジェクトWA-K.proの16人の総勢20人が取り掛かった。杭105本、6尺板70枚、土20立米を使って1日でほぼ完成した。

［基本情報］

施設名：白樺湖夏の家／工学院大学旧白樺湖学寮
所在地：長野県茅野市北山29
主要用途：フィンランドの巨匠アルヴァ・アアルトに学んだ唯一の日本人建築家で工学院大学教授であった武藤章先生（1931-1985）が設計した建築の動態保存を目的に、主に北欧の建築とデザインに関する講演会やワークショップ等に活用する。「白樺湖夏の家」を拠点に、北欧の暮らしに啓発活動を通じ、白樺湖活性化に貢献したい。



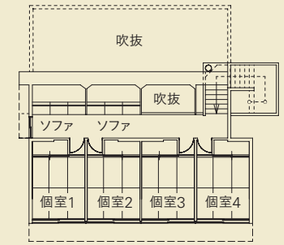
断面図

会員募集中

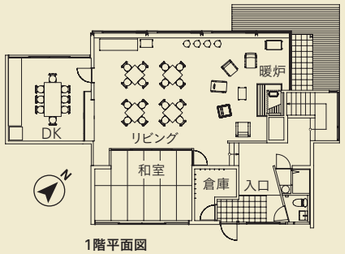
「建築を保存する会」
本建築を保存する活動を支援し、維持管理に協力する校友の会。入会時寄付金は300,000円、維持協力金は12,000円／年。現在の会員数は20名。入会金は改修工事費等の原資となった。会員には「白樺湖夏の家」の鍵が与えられ、まるで自分の別荘のように利用することができる。会員は広く校友と教職員から募集する。会員の同伴を条件に、だれでもいつでも夏の家を利用することができる。教員が入会し研究室のゼミ活動等で有効活用することを期待している。利用スケジュールは「建築を保存する会」が管理する。

企業会員募集中

「建築の保存を支援する企業の会」
本建築を保存する活動を支援し、維持管理に協力する企業の会。入会時寄付金は500,000円、維持協力費は120,000円／年。建築の保存をサポートする企業として建築系同窓会が表彰する。企業会員は本建築を企業研修、企業主催のイベントに利用できる。本学学生を対象とするイベントについては、建築系同窓会が全面的に支援する。



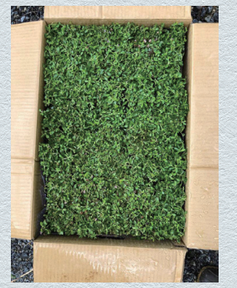
2階平面図



1階平面図

6/12
外構工事・鈴木研究室植栽ゼミ

庭の土の階段にクラピアK7を80苗植栽した。2ヶ月後には緑の絨毯になることを期待して撤収した。人がいない間に鹿やイノシシに食べられないように祈っている。



7/13
JIA25年賞受賞記念
見学会&宿泊体験会

庭のクラピアは雑草に交じり無事に増えつつある。入り口横に日本建築家協会から授与されたJIA25年賞の陶板を取り付け、除幕式を行った。竣工後25年以上良好な状態で維持管理された証である。武藤章先生の助手として図面を描いた南迫哲也先生から、当時の思い出話が披露され、参加者で祝杯をあげた。続いて、白樺湖の北東約5キロにある武藤先生が設計した「タテシナクラブ」（写真下段）に移動し、DOCOMOMO Japan選定プレートの贈呈式を行った。

7/27－28
WRS FCSC小技術委員会

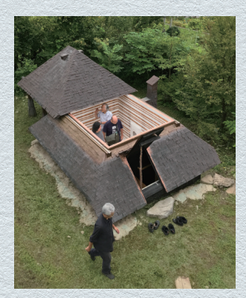
ワールド・ロボット・サミット（WRS）のフューチャーコンビニエンスストアチャレンジ（FCSC）の小技術委員会を夏の家にて開催した。ロボットの活躍が期待されるコンビニエンスストアの在り方を、避暑をかねて軽井沢で話しあった。都会の喧騒を離れて議論したり飲食を共にしたりすると、アイデアが深まることこの上ない。また、東京建築アクセスポイントの見学ツアーの御一行が来館した。工学院大学建築学部の２年生の学生のお父様や、来日中のフィンランドデザインミュージアムのキュレーターも交じっていた。

8/1-7
会員の利用

「建築を保存する会」の個人会員、「建築の保存を支援する企業の会」の会員は、夏の家をいつでも利用できる。会員の河野工氏は静養と執筆を兼ねて滞在し、今年も鹿が遊びに来ているのを目撃した。

9/1－2
JIA25年賞受賞記念講演会

非常勤特任教授の藤森照信先生を迎え、JIA25年賞受賞を記念し講演会を開催した。藤森先生は当初、ご自身の建築作品について話す予定だったが、準備に手違いがあった。「来た球を打つ」ということで、急遽、茶室についての講義に変更し、小堀遠州を題材とした大胆な仮説からの愉快な話を披露された。翌日は茅野に移動し、藤森先生が設計した6ｍの高さの茶室「高過庵（たかすぎあん）」と、屋根がスライドして開閉する竪穴式茶室「低過庵（ひくすぎあん）」を訪ね、ユニークなフジモリワールドを体感した。



10/5－6
2大学合同ゼミ
（前橋工科大学＋工学院大学）

工学院大学鈴木ゼミ3年生7名 と、前橋工科大学の堤洋樹先生のゼミの7名が参加した。混合チーム3班に分かれて企画案を作成した。徹夜で取り組んだ課題は「白樺湖夏の家を無償で提供する。収益を上げる企画を考えよ」。鈴木研究室の4年生と院生がホスト役を務め、食事や暖炉や片付けに徹した。2日目は全員で大掃除をして、撤収した。

10/31
冬季休館

水抜き作業を依頼した花岡設備工業から報告があった。「屋根が破損した。昨年夏に何度か上陸した台風の影響で、屋根の一部がめくれ上がってしまった。応急処置を施したが、近いうちに補修工事が必要な状況だ」次回対処したい。2020年5月1日に開館予定である。

「白樺湖 夏の家」 会員規約

1 名称

本会の名称は、「白樺湖 夏の家」とする。

2 目的

(1) 故武藤章設計の建築を長く維持・監理し、武藤章の北欧建築・デザインの精神に学ぶ。
(2) 白樺湖夏の家を拠点に白樺湖のまちづくりに参画し、北欧の暮らしに学ぶ環境づくりに貢献する。

3 事業

本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
(1) 故武藤章設計の工学院大学白樺湖学寮を学園から引き継ぎ、工学院大学建築学系同窓会が会員制施設として維持、運営する。
(2) 前号に附帯する一切の事業 施設利用に関する規約は別に定める。本会の事業年度は4 月 1 日より 3 月31 日までとする。

4 会員資格

工学院大学校友会会員および工学院大学教職員であること。

5 会員の種類と会費

本会は、本会の目的、事業内容に賛同した「建築を保存する会（正会員）」および「建築の保存を支援する企業の会（企業会員）」から成る。
(1)「建築を保存する会（正会員）」
- 入会時寄付金：300,000 円、維持監理協力費：12,000 円／年
- 施設利用料：無料、同伴者：無料
- 定員：25

(2)「建築の保存を支援する企業の会（企業会員）」
- 入会時寄付金：500,000 円、維持監理協力費：120,000 円／年
- 施設利用料：無料、同伴者：無料
- 定員： 5

6 入会方法

- 入会申込書の提出。
- 役員による入会審査および承認。

7 施設使用原則
（詳細は別に定める）

- 会員は夏の家を自分の別荘だと思って大事に使用すると同時に、会員同士が快適に過ごせるように考えて行動する。
- 夏の家の鍵は、自己責任のもと会員各自が保持する。
- 事前に予約の上、会員自ら解錠して使用する。
- 次に使用する会員のために自ら清掃して、持ち込んだモノは一切残さず、会員が消灯・施錠して帰ること。

8 役員

本会の役員として代表 1 名、副代表1名を置く。
(1) 代表は建築学系同窓会会長とする。副代表は建築学系同窓会副会長とする。
(2) 代表は本会の業務の全てを管理する。但し、代表が必要と認めた場合、他の会員に一部業務を代行させることができる。

9 任期

代表の任期は、工学院大学建築学系同窓会会長、副会長の任期とする。

10 財源

本会の事業に要する資金は、正会員、企業会員の入会時寄付金、維持監理協力費、および寄付金をこれに充てる。ただし、不足の際は工学院大学建築学系同窓会がこれを負担する。

11 会計

本会の会計は工学院大学建築学系同窓会の事業として計上されるものとする。本会の会計年度は4月1日より3月31日までとする。

12 届出事項の変更

会員は、入会申込所にある氏名、住所等に変更が生じた場合は、ただちに代表に届け出る事とする。

13 退会

代表への退会届けの提出をもって退会とする。会員の退会は何人も是を妨げてはならない。

14 解散

本会の解散については、正会員と企業会員の合議による。本会の解散にともなう残余財産の清算については建築系同窓会に移管する。

15 会員間の連絡

会員間の連絡はＥメール、電話等で行う。

16 所在地

本会の所在地を下記の通りとする。
工学院大学　新宿校舎26 階 鈴木敏彦研究室
〒163-8677 東京都新宿区西新宿 1－24－2　に置く。

17 公告の方法

当会の公告は，http://niche-alumni.com/ にて電子公告で行う。

18 設立日

本会の設立日は、平成28年4月1日とする。本規約は、平成28年4月1日より発効とする。この規約の記載内容について事実と相違ないことを証明する。
工学院大学　新宿校舎26 階 鈴木敏彦研究室
〒163-8677 東京都新宿区西新宿 1－24－2
代表　工学院大学建築学系同窓会会長　鈴木敏彦

建築学系同窓会振込先　みずほ銀行　新宿西口支店　普通口座　1029061
名義：工学院大学建築系同窓会　　会長：鈴木敏彦

あなたのそばに、いつも。

窓から夢をひろげていきます

オニサッシ

www.fujisash.co.jp

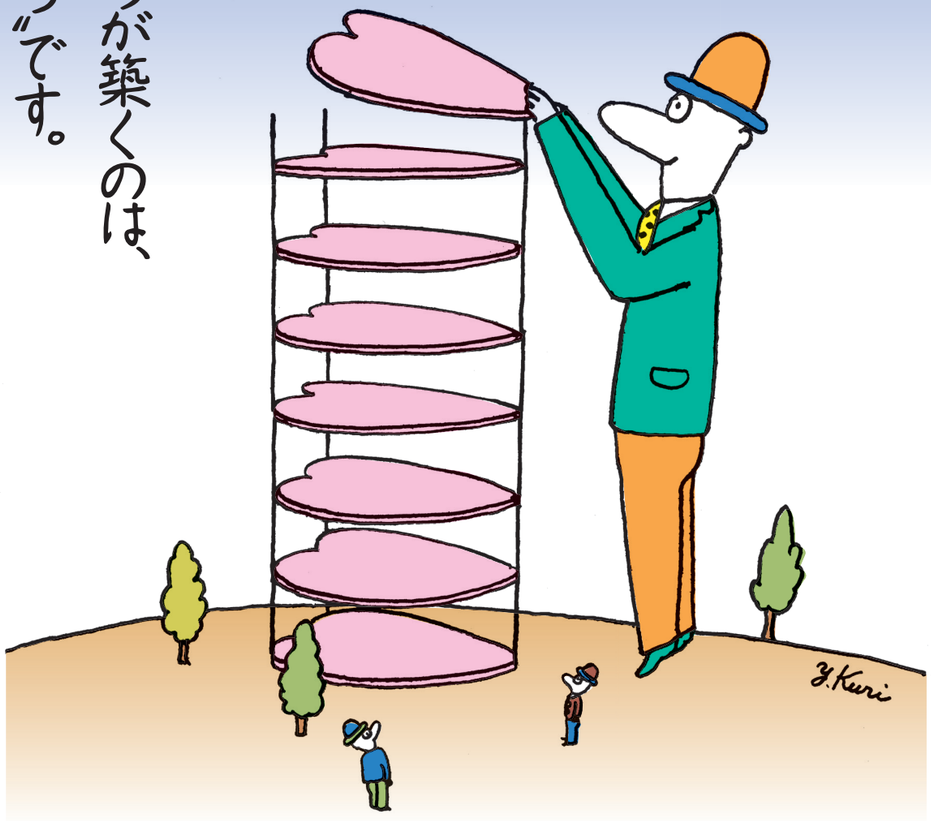
伝統と創造

明倫建設

〒169-0072
東京都新宿区大久保１丁目 17 番 14 号
TEL 03-5285-5816
FAX 03-5285-5818

業務内容
□建築内外リフォーム工事・設計・長期修繕計画
□各種建築物・工作物の解体工事一式請負・施工
□建築物の移築・曳家及社寺建築・文化財建築の修復・復元工事
□建築物の内外装工事の請負・施工
□建築物に付随する各種設備機器の販売及び取付け工事の請負・施工

私たちが築くのは、
“こころ”です。



使う人の気持ちにこたえる “しあわせ品質” をお届けするために
技術力と人間力を掛け合わせた
独自の “現場力” をもって全力で取り組みます。
そして完成後も、運営、維持管理、修繕、再生まで一貫して携わり、
新しい物語が生まれ続けるくらしの舞台を、
時代をこえて支え続けていきます。

高める、つくる、そして、支える。

KUMAGAI 熊谷組

フジタと描く、未来のカタチ。

私たちフジタは、お客様や社会が想い描いている未来を想像し、
その実現に向かって、共にカタチにしていきます。
土木・建築の枠を超えて、まちづくりをサポートし、
そこに暮らす人々にとって本当に価値あるものを創り続けることが
私たちの使命だと考えます。
大和ハウスグループの一員として、
広い視野を持ち、グローバルに展開してきたフジタ。
たゆまず進む私たちに、どうぞご期待ください。

FUJITA
Daiwa House Group®

わたしたちは、構造計算適合性判定業界のリーディングカンパニーとして社会に貢献しています。

取締役会長	田野邉 幸裕	（昭和 44 年卒）
代表取締役社長	鈴木　宏夫	（昭和 44 年卒）
取締役	井上　保夫	（昭和 51 年卒）
監査役	谷口　宗彦	（昭和 44 年卒）
顧問	平野　久雄	（昭和 41 年卒）

構造に興味のある方一緒に働きませんか？

構造計算適合性判定員と補助員を募集しております。
03-6413-5771（管理部）までご連絡ください。

指定構造計算適合性判定機関 / 登録建築物エネルギー消費性能判定機関

株式会社建築構造センター

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-8-1　大橋御苑駅ビル 6 階　TEL：03-6413-5777

「＋」は、未来への可能性。
時代の変化を捉え、未来を見越す力。
建築を取り巻く都市環境までの設計。

AAR+

「＋」means, towards potential future.
Capture the changes of times,
the ability to anticipate the future.
Design the urban environment surrounding
the building.

CORPORATE PHILOSOPHY

気づくこと ＋ 築くこと

THOUGHTFUL NESS + DESIGN

社会、人、未来のニーズに“気づくこと”。
＋
都市全体というマクロな視点で見定め、
その環境・歴史の流れの中で最適な建築を“築くこと”。
AAR+は、「気づくこと＋築くこと」という2つで1つのフィロソフィーを大事にしています。

Based on the “thoughtfulness” of the society, human, the future needs
+
observation from macro viewpoint of the entire city,
to "design” the best architecturein the context of its environment and history.
AAR+ takes care of one philosophy withtwo things in combined "thoughtfulness + design".

AAR+
ASAI KEN ARCHITECTURAL RESEARCH INC.

浅井謙建築研究所株式会社
ASAI KEN ARCHITECTURAL RESEARCH INC.

https://www.asai-archi.com/

皆さまの合格実績に支えられ

おかげさまで 50 Anniversary th since 1969

結

令和の新時代も
努力を結果に結びつける

1級建築士 合格実績 No.1

日建学院
平成30年間の合格実績
（1989年～2018年）
1級建築士 90,284人
（全国累計 158,307人※）
当学院の1級建築士
合格者占有率
57.0%
平成の30年間に誕生した1級建築士の
半分以上が日建学院生です！
2級建築士累計 142,565人
宅建士累計 91,008人

※上記全国累計は（公・財）建築技術教育普及センター
発表試験結果（1989～2018年）のデータです。

あなたの夢、応援します。

日建学院

日建学院コールセンター フリーコール 0120-243-229
株式会社建築資料研究社　東京都豊島区池袋2-50-1　受付／AM10:00～PM5:00（土・日・祝日は除きます）

Cover Story　中島智章

表紙写真は、サルデーニャ島西海岸中央付近のタロス遺跡。使用機材は『Niche 04』と同じくハッセルブラードSWC。ハッセルブラード社は中判フイルム（120フイルム）を使用する6cm×6cmのスクエア・フォーマットのカメラで有名なスウェーデンのメーカーだ。超広角レンズ固定のSWCでは、合焦は目測、構図は外付けファインダーで定める。広角レンズによる建築撮影ではフイルム面を鉛直面に揃えることが肝要だが、本機には水準器が設けられており、ファインダー左脇のプリズムでファインダーを覗きながら確認できる。副機材には、サルデーニャ王国がジェノヴァをもその領土内に含んでいたことから、ジェノヴァの製を選んだ。『Niche 05』で紹介したビルックスとともにスクリュー・マウント・ライカ派生のカメラの中でも最良のものの一つ。ビルックスと同様、高速シャッターと低速シャッターを一つにまとめた一軸回転シャッター、距離計用ファインダーと構図合わせ用ファインダー（焦点距離5cm用のみ）を一体とした一眼式ファインダーなど、ライカにはない長所もある。レンズ・マウントは独自のバヨネット式。光学式露出計も装備。視度補正も操作でき、ビルックスとともに、眼鏡なしでもある程度の合焦が可能なカメラだ。レンズ銘「エッセジ」とはサン・ジョルジョの頭文字SとGのイタリア語読み「エッセ」と「ジー」をつなげたもの。

主機材
ボデー：ハッセルブラードSWC（Hasselblad SWC）
レンズ（固定式）：カール・ツァイス・ビオゴン
（Carl Zeiss Biogon）38mm f4,5
発売開始年：1959年
副機材 1
ボデー：サン・ジョルジョ・ヤヌア（San Giorgio Janua）
レンズ：サン・ジョルジョ・エッセジ（San Giorgio Essegi）
5cm f3,5
製造年：1948年
副機材 2
ボデー：リコーGXR（Ricoh GXR）
レンズ：リコーGRレンズA12 18.3mm f2.5
（ライカ判換算で焦点距離28㎜相当の画角）
ライツ・ヴェツラー・エルマーC（Leitz Wetzlar Elmar-C）
90mm f4（リコー純正マウント・アダプターGXR MOUNT A12経由で装着）
~~発売開始年：2009年~~

Back Numbers　01と02はAmazon、03〜06はAmazonと全国書店でお買い求め頂けます。

NICHE mook 01
世界に羽ばたけ！
イギリスハイブリッド留学2013
ミラノ工科大学国際交流2011-2013

2014年3月31日発行
214ページ永久保存版／特集130ページ、日英バイリンガル
ISBN 978-4-907469-00-9／1,200円＋税

NICHE mook 02
台湾建築探訪！
台湾のフジモリ建築
知られざる梅澤捨次郎の仕事

2015年3月31日発行
248ページ永久保存版／特集160ページ、日台バイリンガル
ISBN 978-4-907469-02-3／1,800円＋税

NICHE 03
フランス建築探訪！
第一回文部省フランス留学生、古市公威
ジャン・プルーヴェ再考

2016年7月14日発行
282ページ永久保存版／特集156ページ、日仏バイリンガル
ISBN 978-4-908390-01-2／2,400円＋税

NICHE 04
ドイツ建築探訪！
ブルーノ・タウト再考
バウハウスとその時代
ドイツ派、妻木頼黄と矢部又吉

2017年8月14日発行
282ページ／特集274ページ、日独バイリンガル
ISBN 978-4-908390-02-9／2,400円＋税

NICHE 05
イタリア建築探訪！
辰野金吾のグランドツアー
JOE COLOMBO 1952-1971
永遠の都ローマ

2018年8月14日発行
253ページ／特集201ページ、日伊バイリンガル
ISBN 978-4-908390-04-3／2,400円＋税

NICHE 06
プラハ、ウィーン、ブダペシュト建築探訪！
キュビズム建築とプラハ
ロース、ヴァーグナー、ホフマンとウィーン
レヒネル・ウドゥンとブダペシュト

2019年12月20日発行
262ページ
ISBN 978-4-908390-07-4／2,800円＋税

大学の知的資源やネットワークを生かして社会に貢献する建築とデザインの本『NICHE』のダイジェスト版

次号予告

NICHE 07　地中海の中心に浮かぶ島 サルデーニャへ！
2020年5月発行予定

NICHE編集部
鈴木敏彦（編集長）、大塚篤、香川浩、
楠昭、柴田卓次、新海俊一、土屋和夫、
中島智章、平井充、類洲環

工学院大学建築学部同窓会誌
NICHE 2020 vol.43

発行日	2020年3 月20日
発行	工学院大学建築学部同窓会 会長　鈴木敏彦
所在地	東京都新宿区西新宿1-24-2
電話	03-3342-1211(代)
編集 制作	杉原有紀、エミリアーノ・カッペリーニ （株式会社ATELIER OPA）
デザイン	舟山貴士（舟山制作室）

NICHE（ニッチ）
「ニッチ」とは、イタリア語では「ニッキア」（nicchia）といい、フランス語の「ニーシュ」（niche）を経て、同じ綴りのまま英語の「ニッチ」となった。日本語では「壁龕（へきがん）」という。古典主義建築のファサードや壁面に施された窪みを意味する。ラテン語の「巣」を意味する「ニドゥス」（nidus）に由来するという説や、半球形となっている頂部が貝殻模様で装飾される場合もあることから貝殻を意味するイタリア語「ニッキオ」（nicchio）を結びつける説もある。この空間には古代ギリシア・ローマ神話の神々やニンフ、ローマ皇帝などの彫像が置かれた。転じて、教会堂内における聖体（キリストの血と肉であるワインとパン）を置く同様の空間や、近世の宮殿や貴族住宅における寝台を収めるアルコーヴを指すようになった。『NICHE』という書名には、大学の知的資源が溢れ出る窪みでありたいという願いを込めている。

NICHE　広告出稿のご案内

掲載	工学院大学建築学部同窓会誌 NICHE2021 vol. 44
発行日、発行部数	2021年3月20日　20,000部
広告掲載料	A. 表紙裏　1P　¥170,000- B. 表紙裏の対向　1P　¥150,000- C. 裏表紙の内側　1P　¥150,000- D. 中面　1P　¥100,000-
申込締切	2020年12月30日
サイズ	縦270mm 幅210mm
広告データ入稿締切	2021年1月31日
お申込・お問合せ先	工学院大学建築学部 鈴木研究室　鈴木敏彦 電話　03-3342-1211（代） 〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2 e-mail: ad@niche-alumni.com ＊申込書が必要な方はご連絡下さい。